平成30年度
（2018年度）

入学者選抜に関する要項

群馬大学

入　試　情　報

■ 群馬大学ホームページ　　http://www.gunma-u.ac.jp/

「入試案内」において、以下の情報等をお知らせしています。
○学生募集要項
○進学相談会・オープンキャンパス等各種イベント案内
○入試実施状況、入試統計資料
○入学時の経費（入学料・授業料等）・奨学金情報
○過去の入試問題
○資料請求方法

入学試験に関する問合せ先

受付時間　８時30分から12時、13時から17時15分（土・日曜日、祝休日、年末年始を除く）

本学は主体的に学ぶ姿勢を持つ学生を求めています。問合せは、やむを得ない場合を除き、志願者本人が行ってください。

■ 本要項及び入学試験全般に関するお問合せ

学務部学生受入課
電話　027－220－7150、7151、7152　／　FAX　027－220－7155　　〒371－8510　前橋市荒牧町４-２

■ 各学部入試担当係

○教育学部（教務係）
電話　027-220-7223　　〒371-8510　前橋市荒牧町４-２

○社会情報学部（教務係）
電話　027-220-7404　　〒371-8510　前橋市荒牧町４-２

○医学部（昭和地区事務部学務課入学試験係）
電話　（医　学　科）027-220-8910　　〒371-8511　前橋市昭和町３-39-22
（保健学科）027-220-8909

○理工学部（学務係）
電話　0277-30-1037　　〒376-8515　桐生市天神町１-５-１

LINEとTwitterから入試情報をリアルタイムでお届けします。

LINE 群馬大学 公式アカウント @gunma_uni_ad と友達になる
https://page.line.me/gunma_uni_ad

群馬大学 公式アカウント @gunma_uni_ad をフォローする
http://twitter.com/gunma_uni_ad

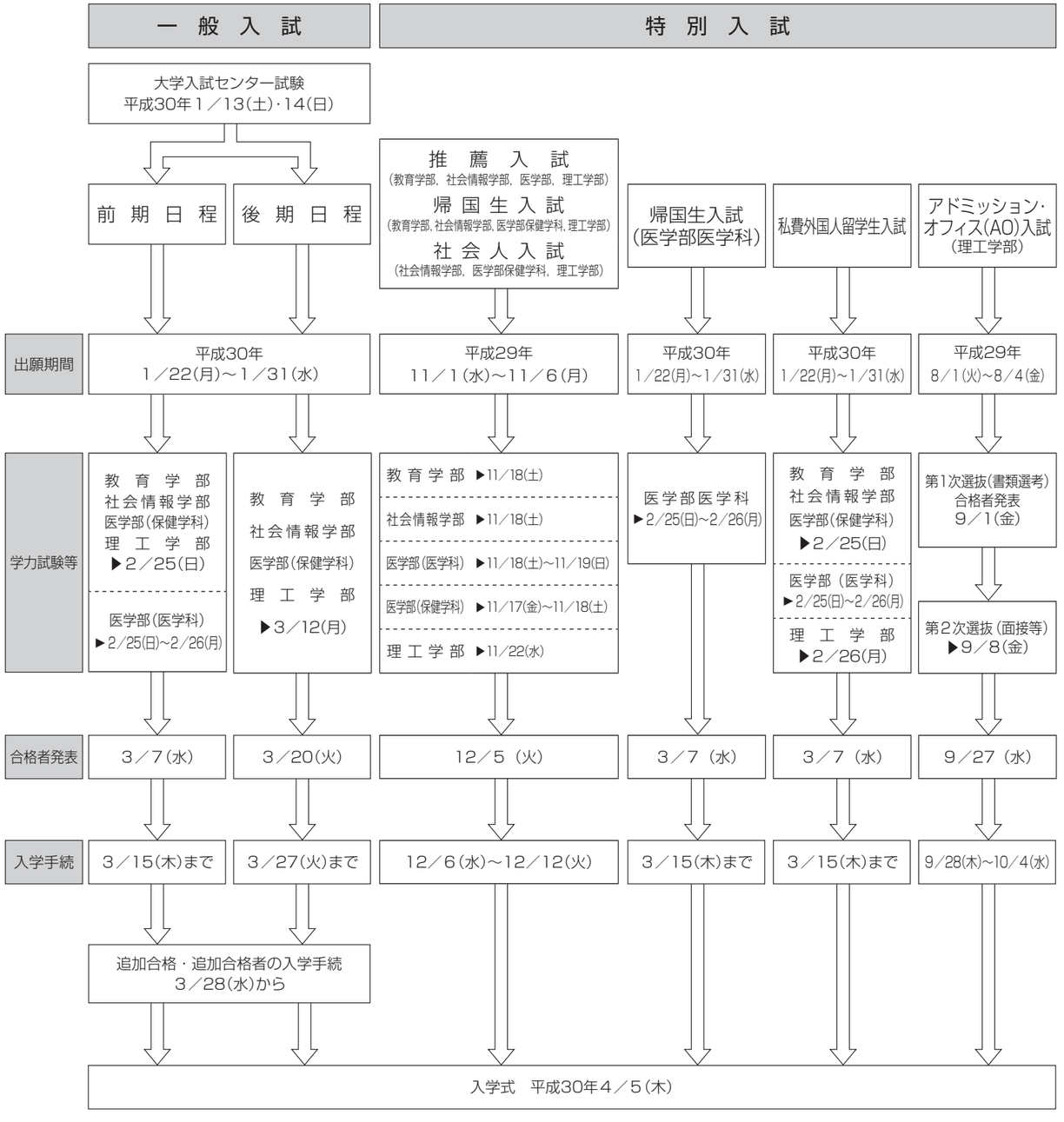
インターネット出願の導入について（予告）

群馬大学では、志願者の利便性向上及び入試業務の効率化等を図るため、平成30(2018)年度入学者選抜(平成29(2017)年度実施)から、一般入試(前期日程･後期日程)でインターネット出願を導入します。 これに伴い、一般入試(前期日程･後期日程)については、紙の学生募集要項は廃止となります。

インターネット出願の導入により、学生募集要項の取り寄せが不要となり、出願期間中は24時間いつでも出願登録ができます。なお、大学入試センター試験の成績請求票や調査書等、出願期間中に郵送が必要な書類があります。

詳細については、本学ホームページにて随時お知らせします。

群馬大学入学者選抜日程の概要



本学では、これらの入学者選抜のほか、編入学試験を実施します。

詳細については､裏表紙｢入学試験に関する問合せ先｣の各学部入試担当係へ問合せてください。

〈群馬大学志願者の入学検定料免除について〉
群馬大学では、東日本大震災及び風水害等の災害に罹災した志願者については、特別措置として検定料の全額を免除します。免除の対象となる災害および被災地域など、免除に関する詳細については、本学のホームページを御覧ください。

目　　次

入学者選抜に関する要項

群馬大学の教育ポリシー…… 2
各学部の教育ポリシー …… 4

1．入学定員（募集人員）…… 45
2．過年度の大学入試センター試験成績…… 46
3．複数受験について…… 46
4．出願資格…… 46
5．出願期間…… 47
6．入学者選抜方法…… 47
別表１　平成30年度群馬大学入学者選抜方法等（一般入試）…… 49
別表２　平成30年度群馬大学入学者選抜方法等（特別入試）…… 51
別表３　平成30年度群馬大学入学者選抜（一般入試）の実施教科・科目等について…… 53
〔別紙〕音楽・美術・保健体育実技試験内容 …… 71
7．特別入試…… 73
(1)　アドミッション・オフィス（AO）入試 …… 73
(2)　推薦入試…… 74
(3)　帰国生入試…… 87
(4)　社会人入試…… 97
(5)　私費外国人留学生入試…… 100
8．障害等のある入学志願者との事前相談について…… 102
9．入学資格審査について…… 102
10．注意事項…… 102
11．入試過去問題の利用について…… 102
12．募集要項の発表時期及び請求方法…… 103
13．平成30年度群馬大学一般入試の志願状況等の発表…… 104

本要項は、本学の入学者選抜に関する基本的な事項をまとめたものです。入学者選抜の詳細については、各募集要項を御確認ください。

必ずお読みください

群馬大学の教育ポリシー

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜入学者に求める能力・資質＞

群馬大学の理念、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな地域社会・国際社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

1　高等学校の教育課程についての総合的な理解と大学教育を受けるにふさわしい基礎学力がある。
2　専門分野を学ぶ上で必要な基礎知識と強い探究心、コミュニケーション能力を持っている。
3　主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている。
4　知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある。
5　高い志と豊かな発想力を持ち、未来を切り開く夢と情熱を持っている。
6　地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持っている。

＜入学者選抜の方針・方法＞

群馬大学は、本学で学びたい学生に対し、その多元的な能力を評価し選抜するために、多様な受験機会・入学試験を提供します。また､本学の国際化推進基本計画に基づいて､海外からの留学生を積極的に受け入れる方針の下､受験機会を提供します。

本学の教育の目標、求める能力・資質に合致する学生を選抜するために、一般入試（前期・後期）の他に、特別入試としてAO入試、推薦入試、帰国生入試、社会人入試、私費外国人留学生入試、３年次編入学試験等の入学試験を実施します。本学の入学試験では、それぞれの学部・学科・課程の専門・特性に合わせて、大学入試センター試験、個別学力検査、実技等試験、調査書、活動歴、面接、小論文等を組み合わせて、総合的に合否を判断します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育課程編成と教育方法＞

全学的な協力体制の下、教養教育と専門教育の融合を図り、幅広く深い教養、豊かな知性と感性、総合的な判断力、専門分野の基礎的能力を育成するため、学生の潜在能力を最大限引き出せる教育課程を編成し、実施します。本学の基本理念及び教育の目標を達成するために、本学の教育課程(カリキュラム)は以下の方針で編成されています。

1　カリキュラム・ポリシーを具現化するカリキュラム・マップに従った系統的な教育と、授業科目の目標・内容・教育方法・達成度(成績)評価方法等について詳述されたシラバスに基づいた教育を実施し、アクティブ・ラーニング等の学生の自主的な学修意欲を促す教育、授業時間外自己学修や学修の振り返りを促す教育等を幅広く行う。
2　学士課程教育においては、全学共通の教養科目、学部別科目(専門基礎科目、一部の学部で開設)､及び専門科目、加えて学部独自の教養教育科目を、互いの融合を図りながら編成する。
3　全学共通の教養科目は、学士力の育成の基礎となる教養基盤科目と、幅広く深い教養・総合的な判断力・豊かな人間性の涵養につながる教養育成科目の二つの科目群から構成される。個別の領域の知識を学ぶのではなく、それらを統合していく考え方の修得及び各学問分野に共通の思考・判断・表現法の修得につながる教育を行うことにより、学生が自らの教養と主体性を構築していくことを促し、また外国語も含めた汎用的技能の基盤を培い、アイデンティティの確立した知識人としての考え方ができる人材を育成する教育を行う。
4　専門教育を学ぶ上で必須となる基礎的知識や技能の修得を目的に、高校教育と大学における専門教育との円滑な接合を助け、その分野の基本的リテラシーについて学ぶ教育を行う。また，専門分野に関連する分野についての基礎的理解と新しいアイデアを引き出すことに役立つ知識・技能の修得を図り、専門分野の知識・理解・技能の質の更なる向上を目指す教育を展開する。
5　専門科目においては，次の能力の養成に向けた教育を行う。
(1)　専門分野の内容、社会的意義と限界を深く理解し、他者に説明・表現できる能力

(2)　専門分野に関係する諸分野についての基礎的理解があり、客観的な評価ができる能力
(3)　自らの専門分野の視点から現代世界が直面する諸変化の特性・特質を理解し、生起する諸課題について探究し、課題解決に実践的に取り組んでいくことができる能力

＜学修成果の評価＞
シラバスに記載の達成度(成績)評価方法に基づいて行います。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜卒業認定・学位授与の条件＞
1　以下の学修達成目標及び所属する学部・学科・課程が定める学位授与の要件を満足していること。
2　所定の年限在学し，かつ所属する学部・学科・課程が定める単位を修得していること。

＜学修成果の目標＞
専門的学識，技能
1　所属する学部・学科・課程の専門分野において求められる専門的学識・技能を修得し、現実の諸課題に対してその活用ができる。
幅広い教養，学際性
2　人間社会、歴史・文化、自然等についての幅広い教養と学際的理解に基づいて、様々な問題に対して多面的・総合的な判断ができる。
論理的思考力，コミュニケーション力
3　論理的思考力とコミュニケーション能力を持ち、社会で生起する問題に対し主体的に取り組む意欲を持っている。
社会人としての自覚，国際性
4　自然との共生を基盤とした豊かな人間性と広い視野及び社会的倫理観を持ち、社会から信頼され国内外で活躍することができる。

必ずお読みください

各学部の教育ポリシー

教　育　学　部

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

1　教職を目指す明確な意志と情熱を有する人
2　児童・生徒の成長に関わることに喜びを感じられる人
3　周囲とのコミュニケーション能力や協調性を備える人
4　諸課題の解決に向けて粘り強く努力できる人
5　系・専攻に関する事項に関心を持ち、教職を目指すために必要な基礎学力を有する人

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

1　学校教員に求められる幅広い教養を培う教育
2　教育に関わる様々な理論に裏付けられた、現実の教育問題を考える力を養う教育
3　教科についての専門的知識を高める教育
4　教科指導法など、学校教員として必要となる知識・技術を培う教育
5　教育実習などの体験的学習を通して、実践的指導力を養う教育
6　卒業研究を通して、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を養う教育

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した、次のような者に学士の学位を授与します。
1　優れた人間性と豊かな教養を有している者
2　各教科の内容について、深い認識を有している者
3　各教科について、実践的な指導力を有している者
4　現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有している者
5　子どもの成長・発達とそれを支える大人の役割について、十分に理解している者
6　子ども、親、同僚などとコミュニケーションをとることができる者

〔国語専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞
優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

＜入学者に求める能力・資質＞
1　高等学校の教育課程、特に人文科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
2　主体的かつ協働的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人

3　国語教育に対して強い探究心を持っている人
4　知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

＜入学に際し必要な基礎学力＞
古文・漢文を含む国語全般についての科目を履修していること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞
1　幅広く深い教養と国語教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
2　国語科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
3　教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
4　教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

＜教育課程の構成＞
1　初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2　上記１を基盤として、国語専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。
具体的に専門科目では、
(1)　教科専門科目
国語科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
(2)　教職専門科目
教育の本質、教育課程、国語科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
(3)　総合的・実践的専門科目
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。
(4)　教育実習関連科目
教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。
上記科目区分で、講義・演習・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

＜教育内容・方法＞
1　学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実習科目の開設
2　シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3　シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習･復習)の督励
4　実践力指導力を養うための教育実習の実施

＜学修成果の評価＞
学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞
1　所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
2　国語科専門科目の内容について必要な知識を備える者
3　教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞
1　国語学、国文学、漢文学、書道についての専門的知識を修得していること。
2　小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
3　現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
4　他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔社会専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞
優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

＜入学者に求める能力・資質＞
1　高等学校の教育課程、特に地理歴史科及び公民科の諸科目について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
2　人間社会の諸問題に幅広い探究心を持っている人
3　自らのことばで表現・発信しながらさまざまな立場の人々と積極的に議論できる人

＜入学に際し必要な基礎学力＞
・　高等学校で「世界史Ｂ」、「日本史Ｂ」、「地理Ｂ」のうち２科目以上を履修していることが望ましい。
・　高等学校で「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」のうち２科目以上を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞
1　幅広く深い教養と社会科教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
2　社会科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
3　教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
4　教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

＜教育課程の構成＞
1　初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2　上記１を基盤として、社会専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。
具体的に専門科目では、
(1)　教科専門科目
社会科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
(2)　教職専門科目
教育の本質、教育課程、社会科･地理歴史科･公民科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論･方法･技術について学ぶ。
(3)　総合的・実践的専門科目
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。
(4)　教育実習関連科目
教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。
上記科目区分で、講義・演習・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

＜教育内容・方法＞

1　学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実習科目の開設
2　シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3　シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習（予習・復習）の督励
4　実践力指導力を養うための教育実習の実施

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績（達成度）評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件，達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
2　社会科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
3　教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

1　日本史及び外国史、地理学、法律学、政治学、社会学、経済学、哲学、倫理学についての専門的知識を修得していること。
2　小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
3　現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
4　他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔英語専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

＜入学者に求める能力・資質＞

1　高等学校の教育課程について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解があり、特に英語の「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の４技能をバランスよく身に付けている人
2　論理的で柔軟な思考能力を持ち、直面する課題を正しく理解し、自ら判断し、自分の考えを表現する能力を持っている人
3　知的好奇心が旺盛で、探究心が強く、主体的に学び、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人
4　様々な課題に対して、多様な人々と協働して取り組む姿勢がある人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

・　入学試験で選択した科目について基礎的知識と総合的理解力を有していることが望ましい。
・　英検２級以上の力を付けておくことが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

1　幅広く深い教養と英語教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育

2　英語科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
3　教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
4　教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

＜教育課程の構成＞

1　初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2　上記１を基盤として、英語専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。
具体的に専門科目では、

(1)　教科専門科目
英語専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。

(2)　教職専門科目
教育の本質、教育課程、英語科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。

(3)　総合的・実践的専門科目
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。

(4)　教育実習関連科目
教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。
上記科目区分で、講義・演習・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

＜教育内容・方法＞

1　学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実習科目の開設
2　シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3　シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習（予習・復習）の督励
4　実践的指導力を養うための教育実習の実施

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績（達成度）評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
2　英語専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
3　教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

1　英語学、英米文学、英語コミュニケーション、異文化理解についての専門的知識を修得していること。
2　小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
3　現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
4　他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔数学専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

〈人材育成の目標〉

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

＜入学者に求める能力・資質＞

1　高等学校の教育課程、特に自然科学分野について総合的理解のある人
2　論理的で柔軟な思考能力を持っている人
3　主体的に学ぶ姿勢を持ち、新しい課題に積極的に取り組む意欲のある人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bを履修していること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

1　幅広く深い教養と数学教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
2　数学科教員として、思考力や表現力、課題解決能力，創造的な探究能力を身に付けられる教育
3　教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
4　教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

＜教育課程の構成＞

1　初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2　上記１を基盤として、数学専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。

具体的に専門科目では、

(1)　教科専門科目
数学科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。

(2)　教職専門科目
教育の本質、教育課程、数学科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。

(3)　総合的・実践的専門科目
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。

(4)　教育実習関連科目
教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。
上記科目区分で、講義・演習・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

＜教育内容・方法＞

1　学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実習科目の開設
2　シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3　シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習（予習･復習）の督励
4　実践的指導力を養うための教育実習の実施

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績（達成度）評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
2　数学科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
3　教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

1　代数学、幾何学、解析学、確率論、統計学、コンピューターについての専門的知識を修得していること。
2　小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
3　現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
4　他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔理科専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

＜入学者に求める能力・資質＞

1　高等学校の教育課程（特に理科）について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
2　自然科学と理科教育に対して強い興味・関心を持っている人
3　理科の知識に基づいた思考・判断ができ、それを論理的に表現できる人
4　周囲の人々と協働しながら、実験・観察に主体的に取り組むことができる人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

物理、化学、生物、地学のうち２科目及び数学Ⅲを履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

1　幅広く深い教養と理科教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
2　理科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
3　教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
4　教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

＜教育課程の構成＞

1　初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2　上記１を基盤として、理科専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。

具体的に専門科目では、

(1) 教科専門科目

理科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。

(2) 教職専門科目

教育の本質、教育課程、理科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。

(3) 総合的・実践的専門科目

複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。

(4) 教育実習関連科目

教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。

上記科目区分で、講義・演習・実験・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

＜教育内容・方法＞

1　学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実験科目・実習科目の開設
2　シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3　シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習･復習)の督励
4　実践的指導力を養うための教育実習の実施

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件，達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
2　理科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
3　教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

1　物理学、化学、生物学、地学、物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験についての専門的知識を修得していること。
2　小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
3　現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
4　他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔技術専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

＜入学者に求める能力・資質＞

1　小学校・中学校又は高等学校の教員となる強い意志を有し、在学中から児童・生徒の模範として行動できる人
2　論理的で柔軟な思考力を持っている人
3　科学技術やものづくりに対して強い興味・関心のある人
4　様々な学問分野について自ら積極的に学ぶ姿勢を持っている人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B(あるいは同等の科目)、理科では、物理(物理基礎を含む)を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

1　幅広く深い教養と技術教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
2　技術科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
3　教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
4　教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

＜教育課程の構成＞

1　初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2　上記１を基盤として、技術専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。

具体的に専門科目では、

(1) 教科専門科目

技術科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。

(2) 教職専門科目

教育の本質、教育課程、技術科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。

(3) 総合的・実践的専門科目

複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。

(4) 教育実習関連科目

教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。

上記科目区分で、講義・演習・実験・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

＜教育内容・方法＞

1　学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実験科目・実習科目の開設
2　シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3　シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習･復習)の督励
4　実践的指導力を養うための教育実習の実施

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件，達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
2　技術科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
3　教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

1　木材加工、金属加工、機械、電気、栽培、情報についての専門的知識を修得していること。
2　小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
3　現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
4　他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔音楽専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

＜入学者に求める能力・資質＞

1　高等学校の教育課程、特に「芸術」の「音楽」分野において、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解があり、声楽・器楽等の十分な知識や技能を有している人
2　音楽理論をよく理解し、音楽についての深い思考力、判断力、表現力を持っている人
3　主体的に、そして多様な人々と協働して学ぶことができ、実践することができる人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（あるいは同等の科目）のうち２つ以上及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

1　幅広く深い教養と音楽教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
2　音楽科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
3　教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
4　教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

＜教育課程の構成＞

1　初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2　上記１を基盤として、音楽専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。
具体的に専門科目では、
(1)　教科専門科目
音楽科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
(2)　教職専門科目
教育の本質、教育課程、音楽科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
(3)　総合的・実践的専門科目
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。
(4)　教育実習関連科目
教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。
上記科目区分で、講義・演習・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

＜教育内容・方法＞

1　学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実習科目の開設
2　シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3　シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習（予習･復習）の督励
4　実践的指導力を養うための教育実習の実施

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績（達成度）評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
2　音楽科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
3　教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

1　ソルフェージュ、声楽、器楽、指揮法、音楽理論、作曲法、音楽史についての専門的知識を修得していること。
2　小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
3　現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について，確かな見識を有していること。
4　他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔美術専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標〉

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

＜入学者に求める能力・資質＞

1　高等学校の教育課程、特に芸術を含む人文・社会科学分野等において、大学教育を受けるにふさわしい思考力・判断力・表現力等の総合的学力を身に付けている人
2　美術の基礎的な造形表現能力を持ち、美術と社会との関係を深く考えることができる人
3　主体的に学び、協働して取り組む姿勢を持っている人
4　創造活動や新たな課題に積極的に取り組む意欲がある人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

・　美術Ⅰを履修していることが望ましい。
・　美術館等に行くことを通して社会や教育における美術の働きについて考える習慣を身に付けていることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

1　幅広く深い教養と美術教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育

2　美術科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
3　教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
4　教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

＜教育課程の構成＞

1　初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2　上記１を基盤として、美術専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。
具体的に専門科目では、
(1)　教科専門科目
美術科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
(2)　教職専門科目
教育の本質、教育課程、図工科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
(3)　総合的・実践的専門科目
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。
(4)　教育実習関連科目
教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。
上記科目区分で、講義・演習・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

＜教育内容・方法＞

1　学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実習科目の開設
2　シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3　シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習･復習)の督励
4　実践的指導力を養うための教育実習の実施

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
2　美術科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
3　教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

1　絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術理論及び美術史についての専門的知識を修得していること。
2　小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
3　現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
4　他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔家政専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

＜入学者に求める能力・資質＞

1　高等学校の教育課程、特に家庭科や自然科学・社会科学分野の知識と総合的理解力を持っている人
2　家政学及び生活科学について主体的に探究し、多様な人々と協働して学べる人
3　生活問題や新しい課題に対して自ら思考・判断し、積極的に取り組む意欲のある人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

家庭科、化学や生物などの自然科学分野、公民や歴史などの社会科学分野の知識を有していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

1　幅広く深い教養と家政教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
2　家庭科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
3　教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
4　教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

＜教育課程の構成＞

1　初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2　上記１を基盤として、家政専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。
具体的に専門科目では、
(1)　教科専門科目
家庭科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
(2)　教職専門科目
教育の本質、教育課程、家庭科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
(3)　総合的・実践的専門科目
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。
(4)　教育実習関連科目
教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。
上記科目区分で、講義・演習・実験・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

＜教育内容・方法＞

1　学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実験科目・実習科目の開設
2　シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3　シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習･復習)の督励
4　実践的指導力を養うための教育実習の実施

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件，達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
2　家庭科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
3　教員に必要な知識と実践的指導力を備え，高い倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

1　家庭経営学(家族関係等を含む)、被服学、食物学、住居学、保育学についての専門的知識を修得していること。
2　小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
3　現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
4　他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔保健体育専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

＜入学者に求める能力・資質＞

1　保健体育及び運動・スポーツ活動に興味を持ち、それらに関する基礎的な知識・技能を有する人
2　保健体育及び運動・スポーツ活動に関わる課題を見出し、課題解決に向けて思考、判断、表現しながら、粘り強く努力する人
3　教職を目指すために，主体的かつ協働的に学ぼうとする人
4　子どもたちとともに運動の楽しさや喜びを味わえる人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

・　高等学校までの保健体育に関する基礎的知識を有している。
・　運動やスポーツ活動における基礎体力及び運動技能を有している。
・　自信を持って実践できる運動やスポーツ活動の経験を有している。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

1　幅広く深い教養と保健体育科教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
2　保健体育科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
3　教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
4　教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

＜教育課程の構成＞

1　初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な

判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2　上記１を基盤として、保健体育専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。
具体的に専門科目では、
(1)　教科専門科目
保健体育専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
(2)　教職専門科目
教育の本質、教育課程、保健体育科の指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
(3)　総合的・実践的専門科目
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。
(4)　教育実習関連科目
教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。
上記科目区分で、講義・演習・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

＜教育内容・方法＞

1　学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実習科目の開設
2　シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3　シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習･復習)の督励
4　実践的指導力を養うための教育実習の実施

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件，達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
2　保健体育専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
3　教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

1　体育実技、体育原理、体育心理学、体育史、運動学、生理学、衛生学及び公衆衛生学、学校保健についての専門的知識を修得していること。
2　小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
3　現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
4　他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔教育専攻・教育心理専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

＜入学者に求める能力・資質＞

【教育専攻】

1　高等学校で履修した各科目について幅広い知識を身に付けた人

2　教育問題など現代社会の諸問題に対する強い探究心を有している人

3　教科外の諸活動にも積極的に参加し、多くの人と関わって物事に取り組む経験をしてきた人

【教育心理専攻】

1　高等学校で履修した各科目について幅広い知識を身に付けた人

2　教育問題など現代社会の諸問題について、様々な観点から思考・判断・表現する力を有している人

3　他者とともに物事に主体的に取り組むことを通して成長してきた人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

【教育専攻・教育心理専攻】

入学試験で選択した科目に限らず幅広く学習していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

1　幅広く深い教養と教育学、教育心理学及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育

2　小学校教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育

3　教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育

4　教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

＜教育課程の構成＞

1　初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。

2　上記１を基盤として、教育専攻、教育心理専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。

具体的に専門科目では、

(1)　教科専門科目

教育学、教育心理学の内容に関し深い学識を身に付ける。

(2)　教職専門科目

教育の本質、教育課程、小学校教科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。

(3)　総合的・実践的専門科目

複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。

(4)　教育実習関連科目

教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。

上記科目区分で、講義・演習・実験・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

＜教育内容・方法＞

1　学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実験科目・実習科目の開設

2　シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開

3　シラバス記載の目標の達成に向けた，講義時間外の自己学習（予習･復習）の督励

4　実践的指導力を養うための教育実習の実施

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績（達成度）評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件，達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者

2　教育学、教育心理学の内容に関し必要な知識を備える者

3　教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

1　教育学、教育心理学についての専門的知識を修得していること。

2　小学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。

3　現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。

4　他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔障害児教育専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

＜入学者に求める能力・資質＞

1　高等学校の教育課程について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解のある人

2　主体的に学ぶ姿勢と、教員にふさわしい論理的で柔軟な思考能力を持っている人

3　特別支援教育に対し、強い意欲がある人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

特別支援教育に携わる教員にふさわしい、読解・記述の能力、各教科の基礎知識を備えていること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

1　幅広く深い教養と特別支援教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育

2　特別支援学校の教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育

3　教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育

4　教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

＜教育課程の構成＞

1　初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。

2　上記１を基盤として､障害児教育専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。

具体的に専門科目では、

(1) 障害児教育専門科目

障害に関する深い学識、障害のある児童・生徒の教育に関する理論・方法・技術について学ぶ。

(2) 教職専門科目

教育の本質、教育課程、各教科の指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。

(3) 総合的・実践的専門科目

複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。

(4) 教育実習関連科目

教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校又は中学校における教育実習、特別支援学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。

(5) 教科専門科目

各教科の内容に関し深い学識を身に付ける。

上記科目区分で、講義・演習・実験・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

＜教育内容・方法＞

1　学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実験科目・実習科目の開設
2　シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3　シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習･復習)の督励
4　実践的指導力を養うための教育実習の実施

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
2　特別支援教育及び各自が選択した教科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
3　教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

1　特別支援教育の基礎理論、特別支援教育領域（聴覚、知的、肢体不自由、病弱)、特別支援教育領域以外の領域についての専門的知識を修得していること。
2　各自が選択した教科の専門的知識を修得していること。
3　特別支援学校の教員並びに小学校又は中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
4　現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
5　他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

必ずお読みください

社会情報学部

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

社会で情報が生産・流通・加工・蓄積・活用される過程に関する知識を有し、批判的な思考・判断によって高度情報社会の課題を発見し、その解決を科学的な思考と実践的な情報処理やデータの収集・分析によって提案できる人材の育成

＜入学者に求める能力・資質＞

1　社会の仕組みや情報技術に関する基本的な知識を持つ人
2　科学的な考え方や基本的な分析手法を身に付けている人
3　思考力・表現力の基礎となる言語運用能力を身につけている人
4　高度情報社会の在り方や望ましい発展に関心がある人
5　情報処理能力やデータの収集・分析能力を身に付けようとする人
6　外国語運用能力の向上と多文化の理解に関心がある人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

入学試験で選択した科目に限らず幅広く学習していることが望ましい。国語や数学、英語、地理歴史、公民、理科等を学習し、さらに広く情報社会の出来事に関心を持つようにしておくことが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

1　大学での学修に必要な基礎的な学力や学修の方法・技術を修得させ、多角的な視点から問題を探究する姿勢を身に付けさせる教育
2　専門教育を支える十分な社会情報学的な思考方法を醸成する教育
3　情報リテラシーやデータ収集・分析能力、外国語運用能力等を養成する教育
4　高度情報社会の特質を専門的・多角的に読み解く力や問題解決能力を養成する教育
5　自ら設定したテーマに沿って調査・研究活動を進め、それを論文や提案として結実させる能力を養成する教育

＜教育課程の構成＞

1　初年次を中心に編成された人文・社会科学、自然科学、外国語科目等の教養基盤科目、教養育成科目により基礎的素養を身に付ける教育を展開する。また、専門教育の基礎となるコア科目及びスキル系科目を学修させ、教養教育から専門教育へのスムーズな導入を図る。
2　これを基盤として、教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、演習を重視し、専門分野での実践力を養う。

＜教育内容・方法＞

1　学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実習の各科目
2　シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3　シラバス記載の目標の達成に向けた講義時間外の自己学習(予習･復習)の督励

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績（達成度）評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した者に学士の学位を授与する。

上記のことを前提に、国立大学唯一の社会情報学部であることから、学士に求められる能力評価の一般的な基準を参考にしつつも、高度情報社会において有用な能力を獲得したかどうかを厳しく評価することとする。

＜学修成果の目標＞

1　社会で情報が生産・流通・加工・蓄積・活用される一連のプロセス（社会情報過程）に関する知識を有し、課題を理解できること

2　情報社会に生起する組織や地域社会の諸課題に関心を持ち、その解決に意欲を持つこと

3　科学的・批判的に思考・判断する能力を有し、自ら得た知見を分かりやすく説明・伝達する能力を備えていること

4　実践的な情報処理能力と課題に即したデータの収集・分析能力を有し、適切な考察を行うことができること

5　外国語運用能力を有し，国内外で活躍できること

必ずお読みください

医学部医学科

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることをふまえ、医学生として、科学的知（Science）、倫理（Ethics）、技能（Skill）の３つの面（SES）にわたって自己研鑽に励むことができる人

1　豊かな感受性、奉仕の精神を備え、医師としてふさわしい資質を身につけることを目指して、不断の努力を積み重ねられる人

2　医療、医学研究、医学教育もしくは医療行政などの分野において、社会に貢献することへの志と強い信念を持っている人

3　本学科の教育内容を理解するために必要な総合的基礎学力を十分に備えている人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

特に日常的な学習が十分に行われていることが望ましいのは、国語と英語である。専門科目を学ぶために必要となるのは、数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bであり、理科では、受験科目にかかわらず、物理（物理基礎を含む）、化学（化学基礎を含む）、生物（生物基礎を含む）である。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知（Science）、倫理（Ethics）、技能（Skill）の３つの面（SES）にわたって生涯自己研鑽する力が付く教育

1　自分をふりかえり他者を思いやる心が育ち、コミュニケーションを通して相互理解を図る態度が身に付く教育

2　自然科学、医学、医療，人間と社会にかかわる知を習得し、それを実践でいかす力が身に付く教育

3　新たな課題にも対応できる問題解決能力が身につき、リサーチマインドが育つ教育

4　生涯にわたって社会貢献と自己研鑽に努める意欲が育つ教育

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した、次のような者に学士の学位を授与します。

医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知（Science）、倫理（Ethics）、技能（Skill）の３つの面（SES）にわたって生涯自己研鑽を続けることができる者

1　医師にふさわしい倫理観と責任感を有し、医療チームの中で医師として適切な行動をとることができ、他者と信頼関係を築ける者

2　医師、医学研究者、医学教育者又は医療行政担当者となるために必要な知識を身に付けるとともに、新たな課題にも対応できる問題解決能力を修得した者

3　医学知識に裏打ちされた臨床と研究の能力を修得し、患者により良い医療を提供する能力と、医学や医療の発展に貢献する意欲を備えた者

必ずお読みください

医学部保健学科

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

1　豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
2　本学科での学修を通して、学士(看護学･保健学)に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
3　将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
4　保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
5　看護師・助産師・保健師、臨床検査技師・細胞検査士、理学療法士、作業療法士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

＜入学者に求める能力・資質＞

1　柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
2　他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
3　理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
4　文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
5　英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

＜入学に際し必要な基礎学力＞

1　各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

知性と行動力を備えた人間性豊かな保健医療人材の育成を目指し，次のような教育を行います。

1　全人的医療の担い手としての人間性の涵養と、専攻分野で必要な基礎力の育成を図る教育
2　専門教育では基礎から臨床に亘る階層的知識の積み上げを図るとともに、先端の保健医療の学習にも配慮する教育
3　保健医療の担い手としての主体的思考・行動力と豊かな感性を持つ人材育成を図る教育
4　チーム医療の担い手としての意識と、そこで必要な能力の育成を図る教育
5　保健医療の諸課題に対応できる地域的視点と国際的視野を持つ人材育成を図る教育

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得し、各専攻のディプロマ・ポリシーが規定する学識と能力を持つ次のような者に学士の学位を授与します。

1　保健医療の中核を担う専門職業人となるために必要な知識と技術を備え、人間の尊厳を尊ぶ心を持つ者
2　保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させてゆく意欲と自己開発力を持つ者
3　チーム医療を担う自覚を有し、関係する人々との相互理解と円滑な協働関係が築ける者
4　保健医療の諸課題に対し、多面的視点からの柔軟な思考，的確な判断と対応ができる者

〔看護学専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

1　豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
2　本学科での学習を通して、学士(看護学)に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
3　将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
4　保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
5　看護師・助産師・保健師となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

＜入学者に求める能力・資質＞

1　柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
2　他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
3　理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
4　文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
5　英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

＜入学に際し必要な基礎学力＞

1　各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

1　全人的医療の担い手として必要な基礎力を身に付けられる教育
2　基礎的学士力「知識、技能、態度、創造的思考力」を身に付けられる教育
3　保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を身に付けられる教育
4　チーム医療の担い手としての意識と能力を身に付けられる教育
5　地域的視点と国際的視野の両方を持ち保健医療の諸課題に広く対応できる能力を身に付けられる教育
6　看護師国家試験を受験できる知識と技術を身に付けられる教育
7　助産師及び保健師コース受講者については、助産師及び保健師国家試験受験に必要な知識と技術を身に付けられる教育

＜教育課程の構成＞

1　初年次を中心に編成された教養基盤科目、教養育成科目、学部別科目からなる教養教育により、いろいろな考え方を学ぶことで、看護専門職のバックグラウンドとしての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2　専門基礎・支持的科目では、保健医療の基礎・在り方を学ぶことで、看護専門科目を学び、実践していくための素養を身に付ける教育を展開する。
3　教養教育及び専門･基礎支持的科目を基盤として､専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。

具体的には，専門科目では、

Ⅰ　看護学の基礎を学ぶ。
Ⅱ　対象や場に応じた看護学を学ぶ。
Ⅲ　Ⅰ、Ⅱを発展・統合する。

という形式で、講義・演習・実験・実習を行い、専門分野での実践力を養う。

＜教育内容・方法＞

1　学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験・実習の各教科
2　シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3　シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習（予習･復習）の督励
4　実践力を養うための臨地実習の実施

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績（達成度）評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件・達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ看護学専攻に定められた単位を修得した者
2　看護師に必要な知識と技術を備え、高い倫理観を持つ者
3　助産師及び保健師コース受講者については、助産師及び保健師に必要な知識と技術を修得した者

＜学修成果の目標＞

保健医療・福祉におけるチームの中で看護の専門性を発揮し、ケアの調整やマネジメントにリーダーシップを発揮でき、さらに、国際化の進展に対応して世界の看護に視野を広げ、国際看護協力が実践できる人材になること。

具体的には、

1　全人的医療を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
2　医療の基礎となる、人間と生活・社会の理解や論理的・科学的思考を高める学問などについて修得していること。
3　看護学分野での研究に必要な手法及び思考法の基礎を修得していること。
4　看護学の対象となる人間のライフサイクル、人間理解を深める心理学・社会学の基礎理論や看護過程の方法論などの専門的知識と、看護実践能力を修得していること。
5　チーム医療を担う一員であることを認識しながら、看護活動の場の拡大に対応した看護実践能力を修得していること。
6　国際的な視野を持ちながら、国や地域レベルの健康課題の解決とシステムづくりに関わる、看護実践能力を修得していること。
7　助産師・保健師コースでは助産師・保健師に必要な知識と技術を修得していること。

〔検査技術科学専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

1　豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
2　本学科での学習を通して、学士(保健学)に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
3　将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
4　保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
5　臨床検査技師・細胞検査士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

＜入学者に求める能力・資質＞

1　柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
2　他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
3　理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
4　文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
5　英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

＜入学に際し必要な基礎学力＞

1　各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

1　全人的医療の担い手として必要な基礎力を身に付けられる教育
2　基礎的学士力「知識、技能、態度、創造的思考力」を身に付けられる教育
3　保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を身に付けられる教育
4　チーム医療の担い手としての意識と能力を身に付けられる教育
5　地域的視点と国際的視野の両方を持ち保健医療の諸課題に広く対応できる能力を身に付けられる教育
6　臨床検査技師国家試験を受験できる知識と技術を身に付けられる教育
7　細胞検査士養成コース受講者については、細胞検査士資格試験受験に必要な知識と技術を身に付けられる教育

＜教育課程の構成＞

1　初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目、学部別科目からなる教養教育、また専門科目への円滑な移行のための専門基礎・支持的科目により、全人的医療やチーム医療など保健医療従事者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2　これを基盤として、専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、実習、臨地実習、演習を重視し、専門分野での実践力を養う。

＜教育内容・方法＞

1　学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験・実習の各教科
2　シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3　シラバス記載の目標の達成に向けた，講義時間外の自己学習(予習･復習)の督励
4　実践力を養うための臨地実習の実施

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績（達成度）評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件・達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ検査技術科学専攻に定められた単位を修得した者
2　臨床検査技師に必要な知識と技術を備え、高い倫理観を持つ者
3　細胞検査士養成コース受講者については、細胞検査士に必要な知識と技術を修得した者

＜学修成果の目標＞

保健医療及び医療の基礎となる生命現象に対する知識・理論を理解し、検査技術科学分野の専門的知識と技術及び実践的応用能力を身につけていること。

具体的には、

1　全人的医療を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
2　医療の基礎となる化学、生物学、物理学、生理学、生化学、解剖学などについて、その基礎を修得していること。
3　検査技術科学分野の新たな発展に必要な研究手法及び研究的思考法の基礎を修得していること。
4　臨床検査技師に必要な検体検査、生理機能検査、病気の早期発見のための検査、遺伝子検査，画像解析などの基礎的・専門的知識と技術を修得していること。
5　チーム医療の重要性を理解し、実践するための能力を身につけていること。
6　国際コミュニケーションスキルと地域・国際社会の保健医療のあり方の基礎を修得していること。
7　細胞検査士養成コースでは細胞検査士に必要な知識と技術を修得していること。

〔理学療法学専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

1　豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
2　本学科での学習を通して、学士(保健学)に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
3　将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
4　保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
5　理学療法士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

＜入学者に求める能力・資質＞

1　柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
2　他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
3　理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
4　文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
5　英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

＜入学に際し必要な基礎学力＞

1　各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

1　全人的医療の担い手として必要な基礎力を身に付けられる教育
2　基礎的学士力「知識、技能、態度、創造的思考力」を身に付けられる教育
3　保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を身につけられる教育
4　チーム医療の担い手としての意識と能力を身に付けられる教育
5　地域的視点と国際的視野の両方を持ち保健医療の諸課題に広く対応できる能力を身に付けられる教育
6　理学療法士国家試験を受験できる知識と技術を身に付けられる教育

＜教育課程の構成＞

1　初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目、学部別科目からなる教養教育、また専門科目への円滑な移行のための専門基礎・支持的科目により、全人的医療やチーム医療など保健医療従事者としての基礎的素養を身につける教育を展開する。
2　これを基盤として、専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、実習、臨地実習、演習を重視し、専門分野での実践力を養う。

＜教育内容・方法＞

1　学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験・実習の各教科
2　シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3　シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習･復習)の督励
4　実践力を養うための臨地実習の実施

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件・達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ理学療法学専攻に定められた単位を修得した者
2　理学療法士に必要な知識と技術を備え、高い倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

保健医療の基礎知識・理念を理解し、理学療法学分野の専門的知識と技術及び実践的応用能力を身につけていること。

具体的には、

1　全人的医療を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
2　医療の基礎となる化学、生物学、物理学、生理学，解剖学などについて、その基礎を修得していること。
3　理学療法学分野での新しい理論や治療技術の研究・開発力の基礎を修得していること。
4　理学療法の理念を理解し、障害に対する評価方法と、その障害に対する運動療法、物理療法、生活環境支援などの介入方法の基礎的知識と技術を修得していること。
5　チーム医療の重要性を理解し、実践するための能力を身につけていること。
6　国際コミュニケーションスキルと地域・国際社会の保健医療のあり方の基礎を修得していること。

〔作業療法学専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

1　豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
2　本学科での学習を通して、学士(保健学)に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
3　将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
4　保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
5　作業療法士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

＜入学者に求める能力・資質＞

1　柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
2　他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
3　理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
4　文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
5　英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

＜入学に際し必要な基礎学力＞

1　各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

1　全人的医療の担い手として必要な基礎力を身に付けられる教育
2　基礎的学士力「知識、技能、態度、創造的思考力」を身に付けられる教育
3　保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を身に付けられる教育
4　チーム医療の担い手としての意識と能力を身に付けられる教育
5　地域的視点と国際的視野の両方を持ち保健医療の諸課題に広く対応できる能力を身に付けられる教育
6　作業療法士国家試験を受験できる知識と技術を身に付けられる教育

＜教育課程の構成＞

1　初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目、学部別科目からなる教養教育、また専門科目への円滑な移行のための専門基礎・支持的科目により、全人的医療やチーム医療など保健医療従事者としての基礎的素養を身につける教育を展開する。
2　これを基盤として、専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、実習、臨地実習、演習を重視し、専門分野での実践力を養う。

＜教育内容・方法＞

1　学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験・実習の各教科
2　シラバスに詳述された、カリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3　シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習（予習･復習）の督励
4　実践力を養うための臨地実習の実施

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績（達成度）評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件・達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ作業療法学専攻に定められた単位を修得した者
2　作業療法士に必要な知識と技術を備え、高い倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

保健医療福祉における病気や障害に関する医学・保健学の知識に加え、人体の構造やメカニズムを理解し、作業療法分野の専門的知識と技術及び実践的応用能力を身に付けていること。

具体的には、

1　全人的医療を理解し、実践するための能力を身につけていること。
2　医療の基礎となる化学、生物学、物理学、生理学、解剖学などについて、その基礎を修得していること。
3　作業療法学分野の新たな発展に必要な研究手法及び研究的思考法の基礎を修得していること。
4　作業療法士に必要な作業療法の理論、身体障害、発達障害、高齢期障害、精神障害などの専門的知識と実践応用能力を習得していること。
5　チーム医療の重要性を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
6　国際コミュニケーションスキルと地域・国際社会の保健医療のあり方の基礎を修得していること。

必ずお読みください

理工学部

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

1　誰も行ったことのない新しいことに挑戦することが好きで、失敗をおそれない人
2　自らの能力向上を目指し、そのための労を惜しまない人
3　自然現象や科学技術などに興味があり、それらを通じて自然科学の原理原則を最後まで追究したい人
4　理工学を学ぶ上での基礎学力を有し、理学的基盤(数学、物理学、化学、生物学など)の理解を基に新理論・新技術の開発にチャレンジしたい人
5　理工学分野で国際的な活躍を目指す人

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

世界の知的基盤を担う創造性豊かな人材を育成するため、学生と教員との緊密なつながりを基本として、次のような教育を行います。

1　理学に根ざした俯瞰的な物の見方、考え方を身に付け、工学に根ざした実践的・独創的な課題解決能力を養う理工学教育
2　国際的な水準を満たし、かつ各教員の特長を活かした教育
3　個人の発想や知的好奇心を尊重し、未知の分野に挑戦する活力と創造性を育む教育
4　国際コミュニケーション能力を備え、世界を舞台に研究者・技術者として活躍できる人材を育成する教育

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した、次のような者に学士の学位を授与します。

1　自然や社会の理解に関する俯瞰的・論理的な見方や考え方を修得した者
2　理工学に関する基礎および専門的な知識を修得した者
3　社会の中で専門分野の知識を活かし，未知なるものの探求、新たなものの創生や諸課題の解決に取り組める者
4　他者の意見を理解し、自らの意見を伝え、外国の人ともコミュニケーションができる素養をも持つ者

〔化学・生物化学科〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

創造的な探究心を実践力に結びつける教育の展開、及び柔軟で質の高い修学支援を基に、自然科学の基礎知識に立脚し、物質の構成原理・物性の解明、新規反応の開発、新規機能材料の創製、生命現象に関わる生理活性物質の機能解明等の諸課題に意欲的・創造的に取り組み、かつ幅広い国際的視野を備え、人間の尊厳に立脚して社会で広く活躍できる人材の育成

＜入学者に求める能力・資質＞

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

1　高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
2　理工学、中でも化学、生物学分野に対して強い探究心を持っている人
3　主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
4　知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B（あるいは同等の科目）、理科では、物理(物理基礎を含む。)、化学(化学基礎を含む。)、生物(生物基礎を含む。)(あるいは同等の科目)のうち二つ以上及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

我が国の社会を支える研究者・技術者としての倫理観を身に付け、自然科学の基礎知識に立脚し、物質の構成原理・物性の解明、新規反応の開発、新規機能材料の創製、生命現象に関わる生理活性物質の機能解明等について基礎から応用までを学ぶ教育を展開する。

＜教育課程の構成＞

1　初年次を中心に編成された、人文・社会科学、自然科学、外国語科目等の教養教育、また、専門教育への円滑な移行のための専門基礎教育により、研究者・技術者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2　上記１を基盤として、学科の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、実験・演習を重視し、専門分野での実践力を養う。
3　また、社会的自立に必要なスキルの修得のための科目も提供する。

＜教育内容・方法＞

1　学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験の各科目
2　シラバスに詳述された、カリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3　シラバス記載の目標の達成に向けた、授業外の自己学習(予習･復習)の督励
4　教務システム等を利用したポートフォリオ等の記録作成を通しての、自己学習の充実

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件，達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ学科の定める単位を修得した者
2　人間社会・自然環境と調和した科学・技術の発展に主体的に貢献しようとする意欲を持つ者
3　職業人、技術者、研究者としての倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

自然科学に加え、化学に対する総合的な知識・理論の基礎を理解し、物質の構成原理と物性の解明、新規反応の開発に基づく機能材料の創製、及び生命現象に関わる生理活性物質の機能解明等に関する基礎・専門的知識と実践的応用能力を身に付けていること。
具体的には、

1　自然科学の基礎となる数学、物理学、化学、生物学などについて、その基礎を修得していること。
2　物質(有機･無機･高分子･生体物質等)の性質、構造、反応、機能、合成等及び生物の構造・機能についての基礎的・専門的知識と実践的応用能力を修得していること。
3　化学技術者としての基礎技術、理工学技術者としての基礎知識を修得していること。
4　国際コミュニケーションスキルの基本を修得していること。
5　社会的自立に必要な就業力、社会生活の基礎となる教養と汎用性スキルを修得していること。

〔機械知能システム理工学科〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

幅広い自然科学と人文科学の教養と、機械の工学と技術に関する深遠な専門知識を有し、これをもって人類の持続的な発展と福祉に寄与し、さらに、地球環境との調和を意識しながら新しい機械と機械システムを創造していくことができる柔軟性豊かな高度専門職業人を育成

＜入学者に求める能力・資質＞

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

1　高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
2　機械とその知能化に興味があり、理工学、中でも物理学、数学分野に対して強い探究心を持っている人
3　主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
4　知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B(あるいは同等の科目)、理科では、物理(物理基礎を含む。)と化学(化学基礎を含む。)(あるいは同等の科目)、及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

幅広い自然科学と人文科学の教養と、機械の工学と技術に関する深遠な専門知識を有し、これをもって人類の持続的な発展と福祉に寄与し、さらに、地球環境との調和を意識しながら新しい機械と機械システムを創造していくことができる柔軟性豊かな高度専門職業人を育成するための基礎から応用までを学ぶ教育を展開する。

＜教育課程の構成＞

1　初年次を中心に編成された、人文・社会科学、自然科学、外国語科目等の教養教育、また、専門教育への円滑な移行のための専門基礎教育により、研究者・技術者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2　上記１を基盤として、学科の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のための、実験・実習・演習を重視し、専門分野での実践力を養う。
3　以上の知識、実践力を表現するプレゼンテーション力、英語力の向上に必要な科目を提供するとともに、社会的自立に必要なスキル修得のための科目も提供する。

＜教育内容・方法＞

1　学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実習・実験の各科目
2　シラバスに詳述された、カリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3　シラバス記載の目標の達成に向けた、授業外の自己学習(予習･復習)の督励
4　教務システムの利用、ポートフォリオ(自己診断シート)や学習記録表などを活用した自己学習の充実

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。また、ディプロマ・ポリシーの学修成果の目標の各項目の達成度は、ポートフォリオ(自己診断シート)等を通して学生が確認する。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ学科の定める単位を修得した者
2　人間社会・自然環境と調和した科学・技術の発展に主体的に貢献しようとする意欲を持つ者
3　職業人、技術者、研究者としての倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

幅広い自然科学と人文科学の教養と、機械の工学と技術に関する深遠な専門知識を有し、これをもって人類の持続的な発展と福祉に寄与し、さらに、地球環境との調和を意識しながら新しい機械と機械システムを創造していくことができる能力を身に付け、柔軟性豊かな高度専門職業人として社会に貢献する能力を有していること。

具体的には、

1　幅広い教養を身に付け、科学技術が人間社会や環境に与える影響を健全に判断・評価できる能力、及び技術者倫理を修得していること。
2　自然科学の本質と基礎原理を十分に理解し、論理的思考により、工学的問題に応用できる能力を修得していること。
3　エネルギー変換のプロセスを正確に理解し、エネルギー的に最適で，しかも環境に配慮した機械の設計や開発に寄与できる知識を修得していること。
4　機械材料の特性・本質・限界を理解するとともに、機械の設計、製造、運用、廃棄にわたるライフサイクルを通して、最適な材料及びその加工方法の選定ができる能力を修得していること。
5　機械の構造や機構・運動の解析能力を身に付け、電子情報技術を融合し機械の知能化を進めることができる知識を修得していること。
6　機械・人類・環境の調和を基礎とした機械知能システム理工学を学修し、目的に合った機械システムを設計・創造する能力を修得していること。
7　自ら問題を発見し、それを解決する手法、いわゆるデザイン能力を身に付け、さらに、未知なる問題に挑戦する精神を持ち、将来の先端的技術開発に携わることができる素養を身に付けていること。
8　自らの研究成果や意見を具体的に表現し、発表・伝達する能力を修得していること。また、語学能力及び国際的に協調できる能力を修得していること。
9　問題に対して他者と議論し、協力し、協調しながらチームとして解決し、発展させてゆくチームワーク力を身に付けていること。

〔環境創生理工学科(環境エネルギーコース)〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

創造的な探究心を実践力に結びつける教育の展開，及び柔軟で質の高い修学支援を基に，自然科学の基礎知識に立脚し，物質とエネルギーの性質を理解し，それらの流れと収支を捉えた上で，環境問題やエネルギーに関する諸課題，又は自然環境との調和を図りながら，種々の社会基盤施設の計画・設計・施工・維持管理に関する諸課題に意欲的・創造的に取り組み，かつ幅広い国際的視野を備え，人間の尊厳に立脚して社会で広く活躍できる人材の育成

＜入学者に求める能力・資質＞

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

1　高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
2　理工学、中でも物理、化学分野に対して強い探究心を持っている人

3　主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
4　知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B(あるいは同等の科目)、理科では、物理(物理基礎を含む。)、化学(化学基礎を含む。)及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

我が国の社会を支える研究者･技術者として、自然科学の基礎知識に立脚し、物質･エネルギー収支に基づくプロセス設計、化学工学、及び環境理工学等を基礎から応用までを学ぶ教育を展開する。

＜教育課程の構成＞

1　初年次を中心に編成された、人文・社会科学、自然科学、外国語科目等の教養教育、また、専門教育への円滑な移行のための専門基礎教育により、研究者・技術者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2　上記１を基盤として、本コースが定める学修成果の目標を達成するための専門教育を、カリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術･方法の修得のため、実験･演習を重視し、専門分野での実践力を養う。
3　自ら課題を見出し、積極的に解決へ向けて進められるスキルを修得するための科目を提供する。

＜教育内容・方法＞

1　学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験の各科目
2　シラバスに詳述された、カリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3　シラバス記載の目標の達成に向けた、授業外の自己学習の督励
4　学生が自分自身で学習・教育目標の達成状況を逐次確認できるためのポートフォリオ(自己診断シート)等の活用

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。また、ディプロマ・ポリシーにおける学修成果の目標の各項目の達成度は，ポートフォリオ(自己診断シート)等を通して学生が確認する。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件，達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ学科及び本コースの定める単位を修得した者
2　人間社会・自然環境と調和した科学・技術の発展に主体的に貢献しようとする意欲を持つ者
3　職業人、技術者、研究者としての自覚を持つ者

＜学修成果の目標＞

自然科学、化学工学に対する総合的な知識･理論の基礎を理解し、物質･エネルギー収支に基づくプロセス設計、化学工学、及び環境理工学等に関する基礎・専門的知識と実践的応用能力を修得するために、以下の五つの学習・教育目標を掲げる。

1　自然科学の基礎となる数学、物理学、化学、生物学などについて、その基礎を修得していること。
2　物質・エネルギー、化学工学、環境理工学についての基礎的・専門的知識と実践的応用能力を修得していること。
3　化学工学技術者・理工学技術者としての基礎知識・基礎技術を修得し、かつ自ら課題を分析し、実施計画を組み立てる能力を修得していること。

4　国際コミュニケーションスキルの基本を修得していること。
5　社会的自立に必要な就業力と汎用的スキルを修得していること。

〔環境創生理工学科(社会基盤･防災コース)〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

創造的な探究心を実践力に結びつける教育の展開、及び柔軟で質の高い修学支援を基に、自然科学の基礎知識に立脚し、物質とエネルギーの性質を理解し、それらの流れと収支を捉えた上で、環境問題やエネルギーに関する諸課題、又は自然環境との調和を図りながら、種々の社会基盤施設の計画・設計・施工・維持管理に関する諸課題に意欲的・創造的に取り組み、かつ幅広い国際的視野を備え、人間の尊厳に立脚して社会で広く活躍できる人材の育成

＜入学者に求める能力・資質＞

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

1　高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
2　理工学、中でも物理、化学分野に対して強い探究心を持っている人
3　主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
4　知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B(あるいは同等の科目)、理科では、物理(物理基礎を含む。)、化学(化学基礎を含む。)及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

我が国の社会を支える研究者・技術者としての倫理観を身に付け、自然科学の基礎知識に立脚し、自然環境との調和を図りながら、種々の社会基盤施設を計画･設計･施工･維持管理することのできる幅広い知識を持った人材を育てる教育を展開する。

＜教育課程の構成＞

1　初年次を中心に編成された、人文・社会科学、自然科学、外国語科目等の教養教育、また、専門教育への円滑な移行のための専門基礎教育により、研究者・技術者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2　上記１を基盤として、本コースが定める学修成果の目標を達成するための専門教育を、カリキュラムマップに則って系統的に行う。
3　自ら課題を見出し、積極的に解決へ向けて進められるスキルを修得するための科目や、社会的自立に必要なスキルを身に付けるための科目を提供する。
4　日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定基準を満たす教育を展開する。

＜教育内容・方法＞

1　学生の主体的・能動的な参加に基づいた科目の設定
2　シラバスに詳述された、カリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3　シラバス記載の目標達成に向けた、授業外の学習の督励
4　学生が自分自身で学習・教育目標の達成状況を逐次確認できるためのポートフォリオ（自己診断シート）等の活用

＜学修成果の評価＞

学修習成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。また、ディプロマ・ポリシーにおける学修成果の目標の各項目の達成度は、ポートフォリオ(自己診断シート)等を通して学生が確認する。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件，達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ学科及び本コースの定める単位を修得した者
2　人文科学、社会科学及び自然科学と理工学の関わり合いを理解し、土木工学の専門技術に関する知識とそれらを応用できる者
3　職業人、技術者、研究者としての倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

社会の要請する水準を満たす土木技術者としての素養を身に付けていること。具体的には、
1　グローバルな視野と基礎学力：人文・社会・自然科学と工学の関わり合いを理解し、工学の基礎素養を修得していること。
2　土木工学の専門知識と応用学力：土木工学主要分野の基礎を身に付け、様々な対象へ展開できる能力の基礎を修得していること。
3　自然環境・社会環境との調和及び技術者倫理：技術が自然環境・社会に与える影響や効果及び技術者倫理の基礎を修得していること。
4　課題の提案・解決能力：社会や技術の要請から自ら課題を見出し、解決するための思考及び行動力が身に付いていること。
5　コミュニケーション能力と国際性：論理的思考能力や、他者との協調性を身に付け、積極的に国内外の技術等に関心を持つ態度を身に付けていること。
6　課題の分析・計画立案能力：自ら課題を分析し、実施計画を組み立てる能力を修得していること。
7　自主的・継続的学習法の修得：自主的、継続的に学習する能力を修得していること。

〔電子情報理工学科(電気電子コース)〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

個々の多様な探究心に応える基礎から応用までを網羅した体系的教育と、質の高い学修支援に基づいて、自然科学、特に数学・物理学・化学の基礎知識に立脚し、電気・電子・情報分野の理工学に関する深い造詣を身に付けるとともに、これらを基礎とした新たな学術領域や応用分野の開拓に意欲的・創造的に取り組み、かつ幅広い国際的視野と倫理観を有する、社会で広く活躍できる人材の育成

＜入学者に求める能力・資質＞

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、身に付けた知識・能力を社会・地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。
1　高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
2　理工学、中でも数学、物理学を基盤とする分野に対して強い探究心を持っている人
3　主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
4　知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

数学では，数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B(あるいは同等の科目)、理科では、物理(物理基礎を含む。)、化学(化学基礎を含む。)(あるいは同等の科目)のうち一つ以上及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

技術者として必要となる数学、物理学、化学などの自然科学のみならず、電気電子工学の基礎理論から応用技術までを網羅した体系的なカリキュラムを通じて、電気電子工学に関連した幅広い基礎知識を身に付けるとともに、課題解決のための論理的思考に基づいた応用力と倫理観を有し、科学技術の発展にグローバルに貢献できる人材を育てる教育を展開する。

＜教育課程の構成＞

1　初年次を中心に人文科学、社会科学、自然科学、及び外国語教育などの教養教育を編成し、技術者としての幅広い教養を身に付けるとともに、国際コミュニケーション能力の基礎となる科目を提供する。
2　電子情報理工学の基礎の理解と、専門教育への円滑な移行を目的とした専門基礎科目を初年次に提供する。
3　勤労観・職業観の形成により、職業人、技術者，研究者としての将来像を主体的に設計する教育科目を初年次を中心に提供する。
4　２年次以降に学科の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に展開する。電気電子工学の基礎となる科目から、応用技術に関連する科目まで幅広く提供し、さらに、演習科目を充実させ、論理的な思考力と実践的な応用力を養う。また、技術者としての倫理観と社会的自立につながる就業力を養う科目を提供する。
5　卒業研究を実施し、論理的思考に基づく課題解決への応用力と、論理的に発表し討論する能力を養う。

＜教育内容・方法＞

1　シラバスに記述されたカリキュラムを構成する各授業科目の目的、内容(概要､方法､スケジュール)による授業の展開と、評価基準及び成績評価方法に基づいた評価の実施
2　各授業科目の学修成果の到達目標に向けた、学生の主体的・能動的な参加の督励
3　シラバスに記載の授業外学習情報を活用した授業外の主体的な学修機会(予習と復習)の提供

＜学修成果の評価＞

各授業科目の成績をシラバスに記載の評価方法に基づいて評価し、学則に定められた基準に照らしてS、A、B、C、Dの５段階で評定し、学修成果を評価する。さらに、各授業科目の評定を基にしてGPAを算出する。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件，達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ学科及びコースの定める単位を修得した者
2　職業人、技術者、研究者としての倫理観を持ち、電気電子工学の発展に国内外で貢献しようとする者
3　主体的に課題を発見し、論理的に課題を解決する能力を持つ者

＜学修成果の目標＞

数学、物理学、化学などの自然科学の基礎知識に加え、計算機を利用するための基礎知識、並びに電子情報理工学に関する基礎及び専門知識を身に付け、論理的思考により科学、工学に関する問題に応用する能力を修得していること。
具体的には、
1　自然科学の基礎となる数学、物理学、化学などについて、その基礎を修得していること。
2　電磁気学、電気回路などの電気電子工学の基礎知識を修得した上で、電子材料、電子デバイスの知識を身に付け、素子の設計開発に応用できる基礎能力を修得していること。
3　エネルギー変換や光エレクトロニクス、計測制御技術の知識を身に付け、最適なシステムの設計開発に応用できる基礎能力を修得していること。
4　情報通信やコンピュータのハードウェア及びソフトウェア技術の知識を身に付け、情報及び回路システムの設計開発に応用できる基礎能力を修得していること。

5　社会人のみならず国際人としての教養を持ち、英文技術資料を理解し英語によるコミュ二ケ―ション基礎能力を修得していること。
6　社会的自立につながる就業力と技術者としての倫理観を持ち、自ら課題を発見し他者と協調しながら計画的に解決する能力を修得していること。また、多面的かつ客観的に物事を捉え、その研究成果を論理的に発表し討論する能力を修得していること。

〔電子情報理工学科(情報科学コース)〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

個々の多様な探究心に応える基礎から応用までを網羅した体系的教育と、質の高い学修支援に基づいて、自然科学、特に数学・物理学・化学の基礎知識に立脚し、電気・電子・情報分野の理工学に関する深い造詣を身に付けるとともに、これらを基礎とした新たな学術領域や応用分野の開拓に意欲的・創造的に取り組み、かつ幅広い国際的視野と倫理観を有する、社会で広く活躍できる人材の育成

＜入学者に求める能力・資質＞

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、身に付けた知識・能力を社会・地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。
1　高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
2　理工学、中でも数学、物理学を基盤とする分野に対して強い探究心を持っている人
3　主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
4　知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B(あるいは同等の科目)、理科では、物理(物理基礎を含む。)、化学(化学基礎を含む。)(あるいは同等の科目)のうち一つ以上及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

技術者として必要となる数学、物理学、化学などの自然科学のみならず、情報科学の基礎理論から応用技術までを網羅した体系的なカリキュラムを通じて、情報科学に関連した幅広い基礎知識を身に付けるとともに、課題解決のための論理的思考に基づいた応用力と倫理観を有し、科学技術の発展にグローバルに貢献できる人材を育てる教育を展開する。

＜教育課程の構成＞

1　初年次を中心に人文科学、社会科学、自然科学、及び外国語教育などの教養教育を編成し、技術者としての幅広い教養を身に付けるとともに、国際コミュニケーション能力の基礎となる科目を提供する。
2　電子情報理工学の基礎の理解と、専門教育への円滑な移行を目的とした専門基礎科目を初年次に提供する。
3　勤労観・職業観の形成により、職業人、技術者、研究者としての将来像を主体的に設計する教育科目を初年次を中心に提供する。
4　２年次以降に学科の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に展開する。情報科学の基礎となる科目から、応用技術に関連する科目まで幅広く提供し、さらに、演習科目を充実させ、論理的な思考力と実践的な応用力を養う。また、技術者としての倫理観と社会的自立につながる就業力を養う科目を提供する。
5　卒業研究を実施し、論理的思考に基づく課題解決への応用力と、論理的に発表し討論する能力を養う。

＜教育内容・方法＞

1　シラバスに記述されたカリキュラムを構成する各授業科目の目的、内容(概要､方法､スケジュール)による授業の展開と、評価基準及び成績評価方法に基づいた評価の実施
2　各授業科目の学修成果の到達目標に向けた、学生の主体的・能動的な参加の督励
3　シラバスに記載の授業外学習情報を活用した授業外の主体的な学修機会(予習と復習)の提供

＜学修成果の評価＞

各授業科目の成績をシラバスに記載の評価方法に基づいて評価し、学則に定められた基準に照らしてS、A、B、C、Dの５段階で評定し、学修成果を評価する。さらに、各授業科目の評定を基にしてGPAを算出する。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件，達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ学科及びコースの定める単位を修得した者
2　職業人、技術者、研究者としての倫理観を持ち、情報科学の発展に国内外で貢献しようとする者
3　主体的に課題を発見し、論理的に課題を解決する能力を持つ者

＜学修成果の目標＞

数学、物理学、化学などの自然科学の基礎知識に加え、計算機を利用するための基礎知識、並びに電子情報理工学に関する基礎及び専門知識を身に付け、論理的思考により科学、工学に関する問題に応用する能力を修得していること。

具体的には、
1　自然科学の基礎となる数学、物理学、化学などについて、その基礎を修得していること。
2　計算や情報を視点とした情報科学の数学理論を身に付け、応用する能力を修得していること。
3　計算機の構造と原理、計算機による効率的な計算の方法、及び計算機システムの基礎知識を身に付け、それらに関する技術を開発する能力を修得していること。
4　計算機に推論や認識などの知的機能を実現するための理論を身に付け、その技術を開発する能力を修得していること。
5　社会人のみならず国際人としての教養を持ち、英文技術資料を理解し英語によるコミュ二ケ―ション基礎能力を修得していること。
6　社会的自立につながる就業力と技術者としての倫理観を持ち、自ら課題を発見し他者と協調しながら計画的に解決する能力を修得していること。また、多面的かつ客観的に物事を捉え、その研究成果を論理的に発表し、討論する能力を修得していること。

〔総合理工学科〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

創造的な探究心を実践力に結びつける教育の展開、及び柔軟で質の高い修学支援を基に、自然科学の基礎知識に立脚し、理工学分野の諸課題に既存の学問分野の枠にとらわれず意欲的・創造的に取り組み、かつ幅広い国際的視野を備え人間の尊厳に立脚して社会で広く活躍できる人材の育成

＜入学者に求める能力・資質＞

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。
1　高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
2　理工学に対して広い興味と強い探究心を持っている人

3　主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
4　知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B(あるいは同等の科目)、理科では、物理(物理基礎を含む。)、化学(化学基礎を含む。)、生物(生物基礎を含む。)(あるいは同等の科目)のうち二つ以上及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

バランスのとれた理工系総合基礎学力の統合的教育を目標とする。化学・生物、機械知能、環境創生、電子情報のいずれかを主たる専門分野とするとともに、それらの分野全体を俯瞰した見方や考え方を教育する。

＜教育課程の構成＞

初年次から高年次にわたり開設する理学系教育科目、基礎的内容を中心とする学科専門科目、先端的専門知識及び実践力を修得させる「総合理工学先端特別研究」を開講するとともに、学生の目的に応じたカリキュラム設計が可能になるように理工学部のすべての開講科目を受講可能とし卒業単位とする。

＜教育内容・方法＞

多くの履修可能な科目から各自の目標に到達するのに必要な科目を組織的に履修できるように、まず、主として修得したい専門分野を、化学・生物、機械知能、環境創生、電子情報から選び、この専門分野ごとに配置されたメンター教員の助言と協力の下、毎学期ごとに履修カリキュラムを作成していくというオーダーメイドなきめ細かい指導を行う。これにより幅広い受講可能科目から、本人に必要な基礎的・専門的知識を修得させる。その上で、先端的専門知識及び実践力を修得させるため、「総合理工学先端特別研究」の履修を求める。

特に、夜間主修学を行う社会人有職者には、リカレント教育として、理工学の最新の知識を理工学の全分野について提供し、本人の専門以外の分野も広く学ぶプログラムを提供する。

また、昼間主修学を行う者には、十分な専門性が保証され多様な学修目標に対応可能な四つの専門教育プログラム(化学・生物専門教育プログラム、機械知能専門教育プログラム、環境創生専門教育プログラム、電子情報専門教育プログラム)を提供する。この専門教育プログラムでは、各対応学科の必修・選択必修の履修条件を満たした上で、メンターや専門指導教員の指導の下で、理工学部の全分野の履修の機会を用意する。専門教育プログラムの修了者には修了認定書を発行し、受けた教育の専門性を保証する。

＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの５段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

＜学位授与の条件，達成度・能力評価の基準＞

1　所定の年限在籍し、かつ学科の定める単位を修得した者
2　人間社会・自然環境と調和した科学・技術の発展に主体的に貢献しようとする意欲を持つ者
3　職業人、技術者、研究者としての倫理観を持つ者

＜学修成果の目標＞

1　自然科学の基礎となる数学、物理学、化学などについて、その基礎を修得していること。
2　化学・生物、機械知能、環境創生、電子情報のいずれか一つ以上の分野に関する基礎・専門的知識と実践的応用能力を身に付けていること。

3　前記分野での 技術者としての基礎技術、理工学技術者としての基礎知識を修得していること。
4　国際コミュニケーションスキルの基本、社会的自立に必要な就業力、社会生活の基礎となる教養と汎用性スキルなどを修得していること。
5　理工学分野において、俯瞰的な見方に基づき、自らの目的に沿った学修を進められること。

1．入学定員（募集人員）

学部	学科・課程・専攻		入学定員	募集人員								備考
				特別入試						一般入試		
				アドミッション・オフィス（ＡＯ）	推薦入試 一般（専門学科・総合学科を含む）	推薦入試 専門学科・総合学科	帰国生	社会人	私費外国人留学生	前期日程	後期日程	
教育学部	学校教育教員養成課程	文化・社会系	220									※教育人間科学系の募集人員については下記のとおりです。 (1)前期日程16名については、おおむね 教育専攻３名 教育心理専攻３名 障害児教育専攻10名 を目安とします。 (2)後期日程８名については、おおむね 教育専攻３名 教育心理専攻２名 障害児教育専攻３名 を目安とします
		国語専攻		－	6	－	－	－	若干名	15	3	
		社会専攻		－	5	－	若干名	－	若干名	17	4	
		英語専攻		－	－	－	－	－	若干名	12	3	
		自然・情報系										
		数学専攻		－	5	－	若干名	－	若干名	18	2	
		理科専攻		－	4	－	若干名	－	若干名	17	5	
		技術専攻		－	－	－	－	－	若干名	7	4	
		芸術・表現系										
		音楽専攻		－	2	－	若干名	－	若干名	9	4	
		美術専攻		－	2	－	若干名	－	若干名	9	4	
		生活・健康系										
		家政専攻		－	－	－	－	－	若干名	11	4	
		保健体育専攻		－	5	－	－	－	若干名	12	3	
		教育人間系										
		教育専攻		－	－	－	－	－	若干名	16	8	
		教育心理専攻							若干名			
		障害児教育専攻			4		若干名		若干名			
		計	220	－	33	－	若干名	－	若干名	143	44	
社会情報学部	社会情報学科		100	－	28	－	若干名	若干名	若干名	56	16	
	計		100	－	28	－	若干名	若干名	若干名	56	16	
医学部	医学科		108	－	35	－	若干名	－	若干名	73	－	
	保健学科	看護学専攻	80	－	30	－	若干名	若干名	若干名	33	17	
		検査技術科学専攻	40	－	9	－	若干名	若干名	若干名	22	9	
		理学療法学専攻	20	－	8	－	若干名	若干名	若干名	8	4	
		作業療法学専攻	20	－	8	－	若干名	若干名	若干名	8	4	
		小計	160	－	55	－	若干名	若干名	若干名	71	34	
	計		268	－	90	－	若干名	若干名	若干名	144	34	
理工学部	化学・生物化学科		160	2	60	－	若干名	－	若干名	86	12	
	機械知能システム理工学科		110	4	33	－	若干名	－	若干名	60	13	
	環境創生理工学科		90	2	28	－	若干名	－	若干名	50	10	
	電子情報理工学科		120	5	35	－	若干名	－	若干名	70	10	
	総合理工学科（フレックス制）		30	－	－	－	－	若干名	－	27	3	
	計		510	13	156	－	若干名	若干名	若干名	293	48	
合計			1098	13	307	－	若干名	若干名	若干名	636	142	

注１　アドミッション・オフィス（AO）入試の入学手続者が募集人員に満たない場合は、原則として、推薦入試の募集人員に、この満たない人数を加えます。
　２　推薦入試の入学手続者が募集人員に満たない場合は、原則として、前期日程の募集人員に、この満たない人数を加えます。
　３　医学部医学科の推薦入試の募集人員35名には地域医療枠10名程度、前期日程の募集人員73名には地域医療枠６名程度を含みます。なお、地域医療枠16名のうち５名については、平成21年度緊急医師確保対策に基づく定員増の延長を認可申請中です。申請が不認可となった場合には、推薦入試の募集人員35名には地域医療枠７名程度、前期日程の募集人員73名には地域医療枠４名程度を含むことになります。詳細は平成29年度11月初旬に本学ホームページで公表予定です。
　４　理工学部総合理工学科（フレックス制）では、夜間開講科目の履修のみで卒業することができます。
　　また、夜間開講の必修・選択科目と昼間開講の選択科目を履修して卒業することもできます。

2．過年度の大学入試センター試験成績

過年度の大学入試センター試験の成績は、利用しません。

3．複数受験について

(1)　国立大学・学部への出願

志願者は、一般入試においては、「前期日程」、「後期日程」からそれぞれ１つの計２つの大学･学部に出願することができます。

※公立大学においては、協会ホームページ（http://www.kodaikyo.org/）参照

(2)　学内併願

本学では、前期・後期の学内併願を各学部ともに認めます。ただし、特別入試については、同一日程の特別入試を併せて受験することはできません。

4．出願資格

(1)　一般入試については、次の①から⑩のいずれかに該当し、本学が指定する平成30年度大学入試センター試験の教科・科目を受験した者とします。

①　高等学校を卒業した者又は平成30年３月31日までに卒業見込みの者

②　中等教育学校を卒業した者又は平成30年３月31日までに卒業見込みの者

③　通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）又は平成30年３月31日までに修了見込みの者

④　外国において学校教育における12年の課程を修了した者若しくは平成30年３月31日までに修了見込みの者で、平成30年３月31日までに18歳に達するもの、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

⑤　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者又は平成30年３月31日までに修了見込みの者

⑥　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は平成30年３月31日までに修了見込みの者

⑦　文部科学大臣の指定した者

⑧　高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第１号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第 13 号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）又は合格見込みの者で、平成30年３月31日までに 18 歳に達するもの

⑨　学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第90条第２項の規定により本学以外の大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの

⑩　本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成30年３月31日までに18歳に達するもの

※上記⑨又は⑩によって本学の出願資格を得ようとする者は、「９．入学資格審査について」（102ページ）を参照してください。

(2)　アドミッション･オフィス（AO）入試については、別に定める出願資格及び出願要件（73ページ）とし、大学入試センター試験は課しません。

(3)　推薦入試については、次の①から③のいずれかに該当する者とし、大学入試センター試験は課しません。なお、出願要件（74～86ページ）は別に定めます。

①　平成30年３月31日までに高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者（平成29年度中に卒業した者又は卒業見込みの者を含む。）

②　通常の課程による 12 年の学校教育を平成30年３月31日までに修了見込みの者（平成 29 年度中に修了した者又は修了見込みの者を含む。）

③　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成29年度中に修了又は修了見込みの者

(4)　帰国生、社会人及び私費外国人留学生入試については、別に定める出願要件（87～101ページ）とし、大学入試センター試験は課しません。

５．出願期間

(1)　特別入試（アドミッション・オフィス(AO)入試）　　平成29年８月１日(火)から８月４日(金)
(2)　特別入試（推薦、帰国生（教育学部、社会情報学部、医学部保健学科、理工学部）
　　及び社会人(社会情報学部､医学部保健学科､理工学部)）　　平成29年11月１日(水)から11月６日(月)
(3)　一般入試・特別入試（帰国生（医学部医学科)、私費外国人留学生入試）　　平成30年１月22日(月)から１月31日(水)

６．入学者選抜方法

各入試の選抜方法は次のとおりです。

(1)　一般入試

大学入試センター試験及び個別学力検査等（本学の各学部・学科等が指定する学力試験、小論文、面接、実技試験等）の成績並びに調査書を総合して判定します。

①　各学部・学科等の入学者選抜方法等は、別表１（49・50ページ）を参照してください。

②　各学部・学科等の一般入試の実施教科・科目等は、別表３（53～70ページ）又は別紙［音楽・美術・保健体育実技試験内容］(71・72ページ）を参照してください。

別表３（53～70ページ）の教科・科目名等に使用してある次の表示は、それぞれカッコ内の語を表しています。

国（国語)、地歴（地理歴史)、世（世界史)、日（日本史)、現社（現代社会)、倫（倫理)、政経（政治･経済)、倫･政経（倫理、政治・経済)、数（数学)、簿（簿記・会計)、情報（情報関係基礎)、理（理科)、物基（物理基礎)、化基（化学基礎)、生基（生物基礎)、地基（地学基礎)、物（物理)、化（化学)、生（生物)、外（外国語)、英（英語)、独（ドイツ語)、仏（フランス語)、中（中国語)、韓（韓国語）

(2)　特別入試

別表２（51・52ページ）及び次の①～⑤のとおり参照してください。

①　アドミッション・オフィス(AO)入試は、73ページを参照してください。
②　推薦入試は、74～86ページを参照してください。
③　帰国生入試は、87～96ページを参照してください。
④　社会人入試は、97～99ページを参照してください。
⑤　私費外国人留学生入試は、100・101ページを参照してください。

「空白ページ」

別表１

平成30年度群馬大学入学者選抜方法等（一般入試）

学部・学科・専攻等 ＼ 選抜方法等				個別学力検査等								専門学科・総合学科卒業生入試	個別学力検査等の日程	備考（欠員の補充の方法等）
				学力試験を課する	実技試験等					２段階選抜				
					系共通問題を課する	実技試験を課する	面接を行う	小論文を課する	外国語におけるリスニングテストを課する	主として、調査書の内容と大学入試センター試験の成績により第１段階選抜を行い、その合格者について更に必要な検査等を行う	第１段階の選抜による合格者数			
											定員に対する倍率	その他		
教育学部	学校教育教員養成課程	文化・社会系	国語専攻	前期	×	○	×	×	○	×	実施しない		実施しない	前期日程 2月25日(日) 後期日程 3月12日(月)	注参照
				後期	×	×	×	○	×	×					
			社会専攻	前期	×	○	×	×	○	×					
				後期	×	×	×	○	×	×					
			英語専攻	前期	○	○	×	×	×	○					
				後期	×	×	×	○	×	×					
		自然・情報系	数学専攻	前期	○	×	×	×	×	×					
				後期	×	○	×	×	×	×					
			理科専攻	前期	×	×	×	×	○	×					
				後期	×	○	×	×	×	×					
			技術専攻	前期	○	×	×	×	×	×					
				後期	×	○	×	×	×	×					
		芸術・表現系	音楽専攻	前期	○	○	○	×	×	×					
				後期	×	×	○	×	×	×					
			美術専攻	前期	×	○	○	×	×	×					
				後期	×	×	○	×	×	×					
		生活・健康系	家政専攻	前期	×	○	×	×	○	×					
				後期	×	×	×	×	○	×					
			保健体育専攻	前期	×	○	○	×	×	×					
				後期	○	×	○	×	×	×					
		教育人間科学系	教育専攻	前期	×	○	×	×	×	×					
				後期	×	×	×	○	×	×					
			教育心理専攻	前期	×	○	×	×	×	×					
				後期	×	×	×	○	×	×					
			障害児教育専攻	前期	×	○	×	×	×	×					
				後期	×	×	×	○	×	×					

別表１

平成30年度群馬大学入学者選抜方法等（一般入試）

学部・学科・専攻等 ＼ 選抜方法等			個別学力検査等								専門学科・総合学科卒業生入試	個別学力検査等の日程	備考（欠員の補充の方法等）
			学力試験を課する	実技試験等				２段階選抜					
				実技試験を課する	面接を行う	小論文を課する	外国語におけるリスニングテストを課する	主として、調査書の内容と大学入試センター試験の成績により第１段階選抜を行い、その合格者について更に必要な検査等を行う	第１段階の選抜による合格者数				
									定員に対する倍率	その他			
社会情報学部	社会情報学科	前期	○	×	×	×	×	実施しない			実施しない	前期日程 2月25日(日) 後期日程 3月12日(月)	注参照
		後期	×	×	×	○	×						
医学部	医学科	前期	○	×	○	○	×	○	約３倍		実施しない	前期日程 2月25日(日)～26日(月) 前期日程 2月25日(日) 後期日程 3月12日(月)	注参照
		後期	実施しない										
	保健学科 看護学専攻	前期	×	×	×	○	×	実施しない					
		後期	×	×	×	○	×						
	保健学科 検査技術科学専攻	前期	×	×	×	○	×						
		後期	×	×	×	○	×						
	保健学科 理学療法学専攻	前期	×	×	×	○	×						
		後期	×	×	×	○	×						
	保健学科 作業療法学専攻	前期	×	×	×	○	×						
		後期	×	×	×	○	×						
理工学部	化学・生物化学科	前期	○	×	×	×	×	実施しない			実施しない	前期日程 2月25日(日) 後期日程 3月12日(月)	注参照
		後期	×	×	○	×	×						
	機械知能システム理工学科	前期	○	×	×	×	×						
		後期	×	×	○	×	×						
	環境創生理工学科	前期	○	×	×	×	×						
		後期	×	×	○	×	×						
	電子情報理工学科	前期	○	×	×	×	×						
		後期	×	×	○	×	×						
	総合理工学科（フレックス制）	前期	○	×	×	×	×						
		後期	×	×	○	×	×						

注１　入学手続期間終了後、入学定員に欠員が生じた場合には追加合格者の決定を行い、更に欠員が生じた場合は、欠員補充第２次募集を行う。

注２　一般入試学生募集要項の発表時期については、103・104ページを参照してください。

別表２

平成30年度群馬大学入学者選抜方法等（特別入試）

学部・学科・専攻等 ＼ 選抜方法等			推薦入試 注１ 入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、学力試験を免除し調査書を主な資料として判定する								アドミッション・オフィス（ＡＯ）入試 注２	帰国生・社会人等のための特別入試 注３				備考
			個別学力検査等を免除し、入学センター試験を課す大学入試	個別学力検査及び入学センター試験を免除する大学入試	実技試験等					推薦入試募集人員		帰国生	中国引揚者等	社会人	私費外国人留学生	
					実技試験を課する	面接を行う	小論文を課する	外国語におけるリスニングテストを課する	その他							
教育学部	学校教育教員養成課程	文化・社会系 国語専攻	×	○	×	○	○	×	×	６名	実施しない	実施しない	若干名	実施しない	若干名	
		文化・社会系 社会専攻	×	○	×	○	○	×	×	５名						
		文化・社会系 英語専攻	実施しない													
		自然・情報系 数学専攻	×	○	×	○	○	×	×	５名			若干名			
		自然・情報系 理科専攻	×	○	×	○	○	×	×	４名						
		自然・情報系 技術専攻	実施しない													
		芸術・表現系 音楽専攻	×	○	○	○	×	×	×	２名			若干名			
		芸術・表現系 美術専攻	×	○	○	○	×	×	×	２名						
		生活・健康系 家政専攻	実施しない										実施しない			
		生活・健康系 保健体育専攻	×	○	×	○	○	×	×	５名						
		教育人間科学系 教育専攻	実施しない													
		教育人間科学系 教育心理専攻	実施しない													
		教育人間科学系 障害児教育専攻	×	○	×	○	○	×	×	４名			若干名			

別表２

平成30年度群馬大学入学者選抜方法等（特別入試）

学部・学科 ＼ 選抜方法等		推薦入試 注１ 入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、学力試験を免除し調査書を主な資料として判定する								アドミッション・オフィス（ＡＯ）入試 注２	帰国生・社会人等のための特別入試 注３				備考
		個別学力検査等を免除し、入学センター試験を課す大学入試	個別学力検査及び入学センター試験を免除する大学入試	実技試験等					推薦入試募集人員		帰国生	中国引揚者等	社会人	私費外国人留学生	
				実技試験を課する	面接を行う	小論文を課する	外国語におけるリスニングテストを課する	その他							
社会情報学部	社会情報学科	×	○	×	○	○	×	×	28名	実施しない	若干名	実施しない	若干名	若干名	
医学部	医学科	×	○	×	○	○	×	×	35名		若干名	実施しない		若干名	
医学部 保健学科	看護学専攻	×	○	×	○	○	×	×	30名		若干名	実施しない	若干名	若干名	
医学部 保健学科	検査技術科学専攻	×	○	×	○	○	×	×	９名						
医学部 保健学科	理学療法学専攻	×	○	×	○	○	×	×	８名						
医学部 保健学科	作業療法学専攻	×	○	×	○	○	×	×	８名						
理工学部	化学・生物化学科	×	○	×	○	○	×	×	60名	２名	若干名	実施しない		若干名	
理工学部	機械知能システム理工学科	×	○	×	○	×	×	×	33名	４名					
理工学部	環境創生理工学科	×	○	×	○	×	×	×	28名	２名					
理工学部	電子情報理工学科	×	○	×	○	×	×	×	35名	５名					
理工学部	総合理工学科（フレックス制）	実施しない								実施しない	実施しない		若干名	実施しない	

注１　推薦入試については、74～86ページを参照してください。

注２　アドミッション・オフィス（ＡＯ）入試については、73ページを参照してください。

注３　帰国生・社会人等のための特別入試については、87～99ページ、私費外国人留学生入試については、100・101ページを参照してください。

平成30年度　群馬大学入学者選抜（一般入試）の実施教科・科目等について

別表３

学部・学科等名及び入学定員等〔平成29年度志願倍率〕			学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名 教科	科目名等	個別学力検査等 教科等	科目名等
教育学部 187人 前期　143 後期　44 〔4.4〕	学校教育教員養成課程	文化・社会系 国語 18人 前期　15 後期　3	前期 ２月25日 後期 ３月12日	国 地歴 公民 数 理 外	国【必須】 世Ａ，世Ｂ，日Ａ，日Ｂ，地理Ａ，地理Ｂ，現社，倫，政経，倫・政経 から２ 数Ⅰ，数Ⅰ・数Ａ，数Ⅱ，数Ⅱ・数Ｂ から１ ア．物基，化基，生基，地基から２ ア又はイ イ．物，化，生，地学から１ ア又はイ 英，独，仏，中，韓から１ ５教科６科目又は５教科７科目若しくは６教科６科目又は６教科７科目	その他 その他	小論文 系共通試験（小論文） 面接 集団面接／15～20分／面接員複数／口頭試問を含む
		文化・社会系 社会 21人 前期　17 後期　4	前期 ２月25日 後期 ３月12日			その他 その他	小論文 系共通試験（小論文） 面接 集団面接／約30分／面接員複数
		文化・社会系 英語 15人 前期　12 後期　3	前期 ２月25日 後期 ３月12日			外 その他 その他	英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ。なお，リスニングテストを含む） 系共通試験（小論文） 面接 集団面接／約20～30分／面接員複数／口頭試問を含む

教育学部　文化・社会系注意事項

㈱１　大学入試センター試験の利用教科・科目について

⑴　「地理歴史」及び「公民」については、同一名称を含む科目（「地理Ａ」と「地理Ｂ」、「倫理」と「倫理、政治・経済」等）を組み合わせて選択することはできません。

⑵　「数学」について、２科目受験している場合は、高得点の科目の成績を用います。

⑶　「理科」について、アとイを満たす場合は、高得点の成績を用います。また、イの中から２科目受験している場合、第１解答科目の成績を用います。

㈱２　個別学力検査等について

「小論文」については、次のとおりです。

⑴　評価に当たっては、次の三点を特に重視します。

・　問題のテーマをよく理解し得たか。

・　問題のテーマに関連した基礎的な知識を持っているか。

・　記述に当たっての論理の運びが正しく、論旨が明快であるか。

⑵　出題の範囲は、特に限定しません。

㈱３　大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等について

⑴　大学入試センター試験の英語の配点については、筆記とリスニングの合計点（250点満点）に0.8を掛け、200点に換算します。なお、英語を選択しリスニングを免除された場合及び英語以外の外国語を選択した場合については、筆記の点数（200点）を配点とします。

⑵　後期日程の英語専攻では、上記㈱３の⑴の配点に、傾斜配点（×2.0）を行います。

⑶　面接（※印）は総合判定の資料とします。なお、面接時間は状況に応じて変わる場合があります。

２段階選抜	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	系共通	実技	面接	配点合計	特別の選抜方法等
	センター試験	200	200		100	100	200					800	推薦 外国人 追加合格 欠員補充
	個別学力検査等							300	100			400	
	計	200	200		100	100	200	300	100			1200	
	センター試験	200	200		100	100	200					800	
	個別学力検査等										※		
	計	200	200		100	100	200					800	
	センター試験	200	200		100	100	200					800	推薦 帰国生 外国人 追加合格 欠員補充
	個別学力検査等							300	100			400	
	計	200	200		100	100	200	300	100			1200	
	センター試験	200	200		100	100	200					800	
	個別学力検査等										※		
	計	200	200		100	100	200					800	
	センター試験	200	200		100	100	200					800	外国人 追加合格 欠員補充
	個別学力検査等						300		100			400	
	計	200	200		100	100	500		100			1200	
	センター試験	200	200		100	100	400					1000	
	個別学力検査等										※		
	計	200	200		100	100	400					1000	

平成30年度　群馬大学入学者選抜（一般入試）の実施教科・科目等について

別表３

学部・学科等名及び入学定員等（平成29年度志願倍率）			学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等	
				教科	科目名等	教科等	科目名等
教育学部 187人 前期　143 後期　44 〔4.4〕	学校教育教員養成課程	自然・情報系 数学 20人 前期　18 後期　2	前期 ２月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国【必須】 世Ａ，世Ｂ，日Ａ，日Ｂ，地理Ａ，地理Ｂ，現社，倫，政経，倫・政経から１ 数Ⅰ，数Ⅰ・数Ａから１ 数Ⅱ，数Ⅱ・数Ｂから１ 物，化，生，地学から１ 英，独，仏，中，韓から１ 〔５教科６科目〕	数	数Ⅰ，数Ⅱ，数Ⅲ，数Ａ，数Ｂ
			後期 ３月12日			その他	系共通試験（小論文）
		自然・情報系 理科 22人 前期　17 後期　5	前期 ２月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国【必須】 世Ａ，世Ｂ，日Ａ，日Ｂ，地理Ａ，地理Ｂ，現社，倫，政経，倫・政経から１ 数Ⅰ，数Ⅰ・数Ａから１ 数Ⅱ，数Ⅱ・数Ｂから１ ア．物基，化基，生基，地基から２／物，化，生，地学から１ イ．物，化，生，地学から２ （ア又はイ） 英，独，仏，中，韓から１ 〔５教科７科目又は５教科８科目〕	その他	小論文
			後期 ３月12日	国 地歴 公民 数 理 外	国【必須】 世Ａ，世Ｂ，日Ａ，日Ｂ，地理Ａ，地理Ｂ，現社，倫，政経，倫・政経から１ 数Ⅰ，数Ⅰ・数Ａから１ 数Ⅱ，数Ⅱ・数Ｂから１ 物，化，生，地学から１ 英，独，仏，中，韓から１ 〔５教科６科目〕	その他	系共通試験（小論文）
		自然・情報系 技術 11人 前期　7 後期　4	前期 ２月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国【必須】 世Ａ，世Ｂ，日Ａ，日Ｂ，地理Ａ，地理Ｂ，現社，倫，政経，倫・政経から１ 数Ⅰ，数Ⅰ・数Ａから１ 数Ⅱ，数Ⅱ・数Ｂから１ 物，化，生，地学から１ 英，独，仏，中，韓から１ 〔５教科６科目〕	数	数Ⅰ，数Ⅱ，数Ⅲ，数Ａ，数Ｂ
			後期 ３月12日			その他	系共通試験（小論文）

教育学部　自然・情報系注意事項

㈱１　大学入試センター試験の利用教科・科目について

⑴「地理歴史」及び「公民」については、同一名称を含む科目（「地理Ａ」と「地理Ｂ」、「倫理」と「倫理、政治・経済」等）を組み合わせて選択することはできません。

⑵「地理歴史」及び「公民」について、計２科目受験している場合は、第１解答科目の成績を用います。

⑶　数学専攻における前期・後期、理科専攻における後期及び技術専攻における前期・後期の「理科」については、２科目受験している場合、第１解答科目の成績を用います。

⑷　理科専攻における前期の「理科」については、アの場合、同一名称を含む科目（「物理」と「物理基礎」等）を組み合わせて選択することはできません。

㈱２　個別学力検査等について

「小論文」については、次のとおりです。

①　評価に当たっては、次の三点を特に重視します。

・　問題のテーマをよく理解し得たか。

・　問題のテーマに関連した基礎的な知識を持っているか。

・　記述に当たっての論理の運びが正しく、論旨が明快であるか。

②　出題の範囲は、特に限定しません。

２段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	系共通	実技	面接	配点合計	特別の選抜方法等
	センター試験	200	＊100	＊100	200	100	200					800	推薦 帰国生 外国人
	個別学力検査等				300							300	
	計	200	＊100	＊100	500	100	200					1100	追加合格 欠員補充
	センター試験	200	＊100	＊100	300	200	200					1000	
	個別学力検査等								200			200	
	計	200	＊100	＊100	300	200	200		200			1200	
	センター試験	200	＊100	＊100	300	200	200					900	推薦 帰国生 外国人
	個別学力検査等							300				300	追加合格 欠員補充
	計	200	＊100	＊100	200	200	200	300				1200	
	センター試験	200	＊100	＊100	300	200	200					1000	
	個別学力検査等								200			200	
	計	200	＊100	＊100	300	200	200		200			1200	
	センター試験	200	＊100	＊100	200	100	200					800	外国人 追加合格 欠員補充
	個別学力検査等				300							300	
	計	200	＊100	＊100	500	100	200					1100	
	センター試験	200	＊100	＊100	300	200	200					1000	
	個別学力検査等								200			200	
	計	200	＊100	＊100	300	200	200		200			1200	

㈱３　大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等について

⑴　大学入試センター試験の英語の配点については、筆記とリスニングの合計点（250点満点）に0.8を掛け、200点に換算します。なお、英語を選択しリスニングを免除された場合及び英語以外の外国語を選択した場合については、筆記の点数（200点）を配点とします。

⑵　後期日程の数学専攻、理科専攻、技術専攻では、大学入試センター試験の配点について、「数学」に傾斜配点（×1.5）、「理科」に傾斜配点（×2.0）を行います。

⑶　配点に＊印を付してある教科は選択教科を表します。

平成30年度　群馬大学入学者選抜（一般入試）の実施教科・科目等について

別表３

学部・学科等名及び入学定員等（平成29年度志願倍率）		学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等	
			教科	科目名等	教科等	科目名等
教育学部 187人 前期　143 後期　44 〔4.4〕	学校教育教員養成課程	芸術・表現系 音楽 13人 前期　9 後期　4	前期 ２月25日	国 地歴 公民	その他	楽典に関する筆記試験 実技 系共通試験（小論文）
			後期 ３月12日	数 理	その他	実技
		芸術・表現系 美術 13人 前期　9 後期　4	前期 ２月25日	外	その他	実技 系共通試験（小論文）
			後期 ３月12日		その他	実技

国【必須】
地歴　世Ａ，世Ｂ，日Ａ，日Ｂ，地理Ａ，地理Ｂ　から１
公民　現社，倫，政経，倫・政経　から１
数　数Ⅰ，数Ⅰ・数Ａ　数Ⅱ，数Ⅱ・数Ｂ　から１
理　ア．物基，化基，生基，地基から２　イ．物，化，生，地学 から１　ア又はイ
外　英，独，仏，中，韓から１
〔５教科５科目又は５教科６科目〕

教育学部　芸術・表現系注意事項

㈱１　大学入試センター試験の利用教科・科目について

⑴　「地理歴史」及び「公民」については、同一名称を含む科目（「地理Ａ」と「地理Ｂ」、「倫理」と「倫理、政治・経済」等）を組み合せて選択することはできません。

⑵　「地理歴史」及び「公民」について、計２科目受験している場合は、第１解答科目の成績を用います。

⑶　「数学」について、２科目受験している場合は、高得点の科目の成績を用います。

⑷　「理科」について、アとイを満たす場合は、高得点の成績を用います。また、イの中から２科目受験している場合、第１解答科目の成績を用います。

㈱２　個別学力検査等について

⑴　音楽専攻の「楽典に関する筆記試験」については、音程、音階、和音、リズム、音符等に関する筆記試験を行います。

⑵　「実技」の試験内容については、別紙「音楽・美術・保健体育実技試験内容」（71･72ページ）を参照してください。

⑶　「小論文」については、次のとおりです。

①　評価に当たっては、次の三点を特に重視します。

・　問題のテーマをよく理解し得たか。

・　問題のテーマに関連した基礎的な知識を持っているか。

・　記述に当たっての論理の運びが正しく、論旨が明快であるか。

②　出題の範囲は、特に限定しません。

㈱３　大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等について

⑴　大学入試センター試験の英語の配点については、筆記とリスニングの合計点（250点満点）に0.8を掛け、200点に換算します。なお、英語を選択しリスニングを免除された場合及び英語以外の外国語を選択した場合については、筆記の点数(200点)を配点とします。

⑵　配点に＊印を付してある教科は選択教科を表します。

２段階選抜	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等													特別の選抜方法等
	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	楽典	小論文	系共通	実技	面接	配点合計	
	センター試験	200	＊100	＊100	100	100	200						700	推薦 帰国生 外国人 追加合格 欠員補充
	個別学力検査等							90		100	260		450	
	計	200	＊100	＊100	100	100	200	90		100	260		1150	
	センター試験	200	＊100	＊100	100	100	200						700	
	個別学力検査等										350		350	
	計	200	＊100	＊100	100	100	200				350		1050	
	センター試験	200	＊100	＊100	100	100	200						700	推薦 帰国生 外国人 追加合格 欠員補充
	個別学力検査等									100	300		400	
	計	200	＊100	＊100	100	100	200			100	300		1100	
	センター試験	200	＊100	＊100	100	100	200						700	
	個別学力検査等										350		350	
	計	200	＊100	＊100	100	100	200				350		1050	

平成30年度　群馬大学入学者選抜（一般入試）

別表３

学部・学科等名及び入学定員等〔平成29年度 志願倍率〕			学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等	
				教科	科目名等	教科等	科目名等
教育学部 187人 前期　143 後期　44 〔4.4〕	学校教育教員養成課程	生活・健康系 家政 15人 前期　11 後期　4	前期 ２月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国【必須】 世Ａ，世Ｂ，日Ａ，日Ｂ，地理Ａ，地理Ｂ，現社，倫，政経，倫・政経　から２ 数Ⅰ，数Ⅰ・数Ａ，数Ⅱ，数Ⅱ・数Ｂ　から１ ア．物基，化基，生基，地基から２ イ．物，化，生，地学 から１　ア又はイ 英，独，仏，中，韓から１ ５教科６科目又は５教科７科目若しくは６教科６科目又は６教科７科目	その他	小論文 系共通試験（小論文）
			後期 ３月12日			その他	小論文
		生活・健康系 保健体育 15人 前期　12 後期　3	前期 ２月25日			その他	実技 系共通試験（小論文）
			後期 ３月12日			その他	保健体育に関する筆記試験 実技

教育学部　生活・健康系注意事項

㈱１　大学入試センター試験の利用教科・科目について

⑴「地理歴史」及び「公民」については、同一名称を含む科目（「地理Ａ」と「地理Ｂ」、「倫理」と「倫理、政治・経済」等）を組み合わせて選択することはできません。

⑵「数学」について、２科目受験している場合は、高得点の科目の成績を用います。

⑶「理科」について、アとイを満たす場合は、高得点の成績を用います。また、イの中から２科目受験している場合、第１解答科目の成績を用います。

㈱２　個別学力検査等について

⑴「実技」の試験内容については、別紙「音楽・美術・保健体育実技試験内容」（71・72 ページ）を参照してください。

⑵「小論文」については、次のとおりです。

①　評価に当たっては、次の三点を特に重視します。

・　問題のテーマをよく理解し得たか。

・　問題のテーマに関連した基礎的な知識を持っているか。

・　記述に当たっての論理の運びが正しく、論旨が明快であるか。

②　出題の範囲は、特に限定しません。

㈱３　大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等について

⑴　大学入試センター試験の英語の配点については、筆記とリスニングの合計点(250点満点)に0.8 を掛け、200 点に換算します。なお、英語を選択しリスニングを免除された場合及び英語以外の外国語を選択した場合については、筆記の点数(200点)を配点とします。

⑵　前期日程及び後期日程の家政専攻及び保健体育専攻では、大学入試センター試験の配点について、「理科」に傾斜配点（×2.0）を行います。

の実施教科・科目等について

２段階選抜	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等												特別の選抜方法等
	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	保健体育	小論文	系共通	実技	面接	配点合計	
	センター試験	200	200		100	200	200						900	外国人 追加合格 欠員補充
	個別学力検査等								400	100			500	
	計	200	200		100	200	200		400	100			1400	
	センター試験	200	200		100	200	200						900	
	個別学力検査等								150				150	
	計	200	200		100	200	200		150				1050	
	センター試験	200	200		100	200	200						900	推薦 外国人 追加合格 欠員補充
	個別学力検査等									100	400		500	
	計	200	200		100	200	200			100	400		1400	
	センター試験	200	200		100	200	200						900	
	個別学力検査等							50			100		150	
	計	200	200		100	200	200	50			100		1050	

平成30年度　群馬大学入学者選抜（一般入試）の実施教科・科目等について

別表３

学部・学科等名及び入学定員等（平成29年度志願倍率）				学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等	
					教科	科目名等	教科等	科目名等
教育学部 187人 前期　143 後期　44 〔4.4〕	学校教育教員養成課程	教育人間科学系 24人 前期　16 （おおむね教育３名，教育心理３名，障害児教育10名を目安とします。） 後期　8 （おおむね教育３名，教育心理２名，障害児教育３名を目安とします。）	教育	前期 ２月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国【必須】 世Ａ，世Ｂ，日Ａ，日Ｂ， 地理Ａ，地理Ｂ　から２ 現社，倫，政経，倫・政経 数Ⅰ，数Ⅰ・数Ａ 数Ⅱ，数Ⅱ・数Ｂ　から１ ア．物基，化基，生基，地基から２ イ．物，化，生，地学 から１　ア又はイ 英，独，仏，中，韓から１ ５教科６科目又は５教科７科目 若しくは ６教科６科目又は６教科７科目	その他	系共通試験（小論文）
				後期 ３月12日			その他	面接 １回目：集団面接／15～20分／面接員複数 ２回目：集団面接／15～20分／面接員複数
			教育心理	前期 ２月25日			その他	系共通試験（小論文）
				後期 ３月12日			その他	面接 １回目：集団面接／15～20分／面接員複数 ２回目：集団面接／15～20分／面接員複数
			障害児教育	前期 ２月25日			その他	系共通試験（小論文）
				後期 ３月12日			その他	面接 １回目：集団面接／15～20分／面接員複数 ２回目：集団面接／15～20分／面接員複数

教育学部　教育人間科学系注意事項

㈱１　大学入試センター試験の利用教科・科目について

⑴「地理歴史」及び「公民」については、同一名称を含む科目（「地理Ａ」と「地理Ｂ」、「倫理」と「倫理、政治・経済」等）を組み合わせて選択することはできません。

⑵「数学」について、２科目受験している場合は、高得点の科目の成績を用います。

⑶「理科」について、アとイを満たす場合は、高得点の成績を用います。また、イの中から２科目受験している場合、第１解答科目の成績を用います。

㈱２　個別学力検査等について

「小論文」については、次のとおりです。

⑴　評価に当たっては、次の三点を特に重視します。

・　問題のテーマをよく理解し得たか。
・　問題のテーマに関連した基礎的な知識を持っているか。
・　記述に当たっての論理の運びが正しく、論旨が明快であるか。

⑵　出題の範囲は、特に限定しません。

㈱３　大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等について

⑴　大学入試センター試験の英語の配点については、筆記とリスニングの合計点(250点満点)に0.8を掛け、200点に換算します。なお、英語を選択しリスニングを免除された場合及び英語以外の外国語を選択した場合については、筆記の点数(200点)を配点とします。

⑵　面接（※印）は総合判定の資料とします。なお、面接時間は状況に応じて変わる場合があります。

２段階選抜	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等												特別の選抜方法等
	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	系共通	実技	面接	配点合計	
	センター試験	200	200		100	100	200					800	外国人 追加合格 欠員補充
	個別学力検査等								300			300	
	計	200	200		100	100	200		300			1100	
	センター試験	200	200		100	100	200					800	
	個別学力検査等										※		
	計	200	200		100	100	200					800	
	センター試験	200	200		100	100	200					800	外国人 追加合格 欠員補充
	個別学力検査等								300			300	
	計	200	200		100	100	200		300			1100	
	センター試験	200	200		100	100	200					800	
	個別学力検査等										※		
	計	200	200		100	100	200					800	
	センター試験	200	200		100	100	200					800	推薦 帰国生 外国人 追加合格 欠員補充
	個別学力検査等								300			300	
	計	200	200		100	100	200		300			1100	
	センター試験	200	200		100	100	200					800	
	個別学力検査等										※		
	計	200	200		100	100	200					800	

平成30年度　群馬大学入学者選抜（一般入試）の実施教科・科目等について

別表３

学部・学科等名及び入学定員等（平成29年度 志願倍率）		学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名 ※	教科	科目名等	個別学力検査等 教科等	科目名等
社会情報学部	社会情報学科	前期	a	国	国【必須】	数	数学（数Ⅰ，数Ⅱ，数A，数B）
				地歴	世A，世B，日A，日B，地理A，地理B から２	外	英語（コミュニケーション英語基礎，コミュニケーション英語Ⅰ，コミュニケーション英語Ⅱ，コミュニケーション英語Ⅲ，英語表現Ⅰ，英語表現Ⅱ） 数学又は英語
72人	72人			数	数Ⅰ，数Ⅰ・数Aから１		
前期　56	前期　56				数Ⅱ，数Ⅱ・数B，簿，情報から１		
後期　16	後期　16			理	ア．物基，化基，生基，地基から２ ／ イ．物，化，生，地学 から１ （ア又はイ）		
				外	英，独，仏，中，韓から１ 〔５教科７科目又は５教科８科目〕		
		２月25日	b	国	国【必須】		
				地歴	世A，世B，日A，日B，地理A，地理B から１		
〔5.1〕				公民	現社，倫，政経，倫・政経から１		
				数	数Ⅰ，数Ⅰ・数Aから１		
					数Ⅱ，数Ⅱ・数B，簿，情報から１		
				理	ア．物基，化基，生基，地基から２ ／ イ．物，化，生，地学 から１ （ア又はイ）		
				外	英，独，仏，中，韓から１ 〔６教科７科目又は６教科８科目〕		
		後期				その他	小論文
		３月12日	c	国	国【必須】		
				地歴	世A，世B，日A，日B，地理A，地理B から１		
				公民	現社，倫，政経，倫・政経 から１		
				数	数Ⅰ，数Ⅰ・数Aから１		
					数Ⅱ，数Ⅱ・数B，簿，情報から１		
				理	ウ．物基，化基，生基，地基から２ 物，化，生，地学 から１ ／ エ．物，化，生，地学 から２ （ウ又はエ）		
				外	英，独，仏，中，韓から１ 〔５教科７科目又は５教科８科目〕		

※　大学入試センター試験の利用教科・科目は、前期・後期ともａ～ｃのいずれかの型になります。

社会情報学部注意事項

㈱１　大学入試センター試験の利用教科・科目について

(1)「地理歴史」及び「公民」については、同一名称を含む科目（「地理Ａ」と「地理Ｂ」、「倫理」と「倫理、政治・経済」等）を組み合わせて選択することはできません。

(2) 理科の「基礎を付した科目」を利用する場合は、任意の２科目を必ず選択解答してください。（「基礎を付した科目」を１科目のみ選択することはできません。）

(3) 理科については、ｃのウの場合、同一名称を付した科目（「物理」と「物理基礎」等）を選択することができます。

(4)「地理歴史」、「公民」及び「理科」について、ａ～ｃの型を超えて受験した場合は、以下の取扱いとします。

㈠「地理歴史」、「公民」から２科目、「理科」の「物基、化基、生基、地基」及び「物、化、生、地学」を受験している場合は、「地理歴史及び公民の第１解答科目」の成績及び「地理歴史及び公民の第２解答科目」、「物基、化基、生基、地基」、「物、化、生、地学」のうち「高得点の２科目（ただし、「物基、化基、生基、地基」は２科目の合計点を１科目として取扱う）」の成績を用います。

㈡「地理歴史」、「公民」から２科目及び「理科」の「物、化、生、地学」から２科目を受験している場合は、「地理歴史及び公民の第１解答科目」の成績、「理科の第１解答科目」の成績及び「他の２科目のうち高得点の科目」の成績を用います。

㈱２　個別学力検査等について

「小論文」については、広く現代社会に関する諸問題への関心度と理解度をみるとともに、勉学に必要な長文読解力、論理的思考力、文章表現力等を試します。

㈱３　大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等について

(1)　大学入試センター試験の英語の配点については、筆記とリスニングの合計点（250点満点）に0.8を掛け、200点に換算します。なお、英語を選択しリスニングを免除された場合及び英語以外の外国語を選択した場合については、筆記の点数（200点）を配点とします。

(2)　前期日程個別学力検査について、２教科とも受験している場合は、高得点の教科の成績を用います。また、数学及び英語の得点は素点としますが、得点調整を行うことがあります。

(3)　配点に＊印を付してある教科は選択教科を表します。

２段階選抜	試験の区分	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	実技	面接	配点合計	特別の選抜方法等
	センター試験	200	＊200 ／ ＊100		200	＊100 ／ ＊200	200				900	推薦 帰国生 社会人 外国人
	個別学力検査等				＊400		＊400				400	追加合格 欠員補充
	計	200	＊200 ／ ＊100		200 ／ ＊400	＊100 ／ ＊200	200 ／ ＊400				1300	
	センター試験	200	＊200 ／ ＊100		200	＊100 ／ ＊200	200				900	
	個別学力検査等							400			400	
	計	200	＊200 ／ ＊100		200	＊100 ／ ＊200	200	400			1300	

平成30年度　群馬大学入学者選抜（一般入試）の実施教科・科目等について

別表３

学部・学科等名及び入学定員等（平成29年度志願倍率）		学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名 教科	科目名等	個別学力検査等 教科等	科目名等
医学部 医学科 73人 前期　73 〔4.3〕		前期 ２月25日 ２月26日	国 地歴 公民 数 理 外	国【必須】 世Ａ，世Ｂ，日Ａ，日Ｂ，地理Ａ，地理Ｂ，現社，倫，政経，倫・政経 から１ 数Ⅰ・数Ａ【必須】 数Ⅱ・数Ｂ【必須】 物，化，生から２ 英，独，仏から１ 〔５教科７科目〕	数 理 その他	数Ⅰ，数Ⅱ，数Ⅲ，数Ａ，数Ｂ 物基，物，化基，化 小論文（理系と英語の能力を問うことがある） 面接 集団面接／25分／面接員複数
医学部 保健学科 105人 前期　71 後期　34 〔4.2〕	看護学専攻 50人 前期　33 後期　17	前期 ２月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国【必須】 世Ａ，世Ｂ，日Ａ，日Ｂ，地理Ａ，地理Ｂ，現社，倫，政経，倫・政経 から１ 数Ⅰ・数Ａ【必須】 数Ⅱ・数Ｂ，簿，情報から１ 物，化，生から２ 英，独，仏，中，韓から１ 〔５教科７科目〕	その他	小論文Ⅰ（英語の能力を問うことがある） 小論文Ⅱ（理系の能力を問うことがある）
		後期 ３月12日			その他	小論文Ⅰ（国語と英語の能力を問うことがある） 小論文Ⅱ（理系の能力を問うことがある）
	検査技術科学専攻 31人 前期　22 後期　9	前期 ２月25日			その他	小論文Ⅰ（英語の能力を問うことがある） 小論文Ⅱ（理系の能力を問うことがある）
		後期 ３月12日			その他	小論文Ⅰ（国語と英語の能力を問うことがある） 小論文Ⅱ（理系の能力を問うことがある）
	理学療法学専攻 12人 前期　8 後期　4	前期 ２月25日			その他	小論文Ⅰ（英語の能力を問うことがある） 小論文Ⅱ（理系の能力を問うことがある）
		後期 ３月12日			その他	小論文Ⅰ（国語と英語の能力を問うことがある） 小論文Ⅱ（理系の能力を問うことがある）
	作業療法学専攻 12人 前期　8 後期　4	前期 ２月25日			その他	小論文Ⅰ（英語の能力を問うことがある） 小論文Ⅱ（理系の能力を問うことがある）
		後期 ３月12日			その他	小論文Ⅰ（国語と英語の能力を問うことがある） 小論文Ⅱ（理系の能力を問うことがある）

医学部注意事項

㈱１　大学入試センター試験の利用教科・科目について

⑴　「地理歴史」及び「公民」については、同一名称を含む科目（「地理Ａ」と「地理Ｂ」、「倫理」と「倫理、政治・経済」等）を組み合わせて選択することはできません。

⑵　「地理歴史」及び「公民」について、計２科目受験している場合は、第１解答科目の成績を用います。

㈱２　大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等について

⑴　医学科は、大学入試センター試験の英語の配点については、リスニングを含み、筆記（200点満点を180点に圧縮）とリスニング（50点満点を20点に圧縮）の合計点を200点満点に換算します。なお、英語を選択しリスニングを免除された場合及び英語以外の外国語を選択した場合については、筆記の点数（200点）を配点とします。

⑵　保健学科は、大学入試センター試験の英語の配点については、筆記とリスニングの合計点（250点満点）に0.8を掛け、200点に換算します。なお、英語を選択しリスニングを免除された場合及び英語以外の外国語を選択した場合については、筆記の点数（200点）を配点とします。

２段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	実技	面接	配点合計	特別の選抜方法等
約３倍	センター試験	100	＊50	＊50	100	100	100				450	推薦 帰国生 外国人
	個別学力検査等				150	150		150		※	450	追加合格 欠員補充
	計	100	＊50	＊50	250	250	100	150			900	
	センター試験	200	＊100	＊100	200	200	200				900	推薦 帰国生 社会人 外国人
	個別学力検査等							450			450	
	計	200	＊100	＊100	200	200	200	450			1350	
	センター試験	200	＊100	＊100	200	200	200				900	追加合格 欠員補充
	個別学力検査等							450			450	
	計	200	＊100	＊100	200	200	200	450			1350	
	センター試験	200	＊100	＊100	200	200	200				900	推薦 帰国生 社会人 外国人
	個別学力検査等							450			450	
	計	200	＊100	＊100	200	200	200	450			1350	
	センター試験	200	＊100	＊100	200	200	200				900	追加合格 欠員補充
	個別学力検査等							450			450	
	計	200	＊100	＊100	200	200	200	450			1350	
	センター試験	200	＊100	＊100	200	200	200				900	推薦 帰国生 社会人 外国人
	個別学力検査等							450			450	
	計	200	＊100	＊100	200	200	200	450			1350	
	センター試験	200	＊100	＊100	200	200	200				900	追加合格 欠員補充
	個別学力検査等							450			450	
	計	200	＊100	＊100	200	200	200	450			1350	
	センター試験	200	＊100	＊100	200	200	200				900	推薦 帰国生 社会人 外国人
	個別学力検査等							450			450	
	計	200	＊100	＊100	200	200	200	450			1350	
	センター試験	200	＊100	＊100	200	200	200				900	追加合格 欠員補充
	個別学力検査等							450			450	
	計	200	＊100	＊100	200	200	200	450			1350	

⑶　医学科の前期日程では、大学入試センター試験の各教科について、傾斜配点（× 0.5）を行います。

⑷　配点に＊印を付してある教科は選択教科を表します。

⑸　面接（※印）は総合判定の資料とします。なお、面接時間に応じて変わる場合があります。

平成30年度　群馬大学入学者選抜（一般入試）

別表３

学部・学科等名及び入学定員等（平成29年度志願倍率）		学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名 教科	科目名等	個別学力検査等 教科等	科目名等
理工学部 341人 前期　293 後期　48 〔3.3〕	化学・生物化学科 98人 前期　86 後期　12	前期 ２月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国【必須】 世Ａ，世Ｂ，日Ａ，日Ｂ，地理Ａ，地理Ｂ，現社，倫，政経，倫・政経 ┐から１ 数Ⅰ・数Ａ【必須】 数Ⅱ・数Ｂ，簿，情報から１ 物，化，生，地学から２ 英【必須】〔５教科７科目〕	数 理 外	数Ⅰ，数Ⅱ，数Ⅲ，数Ａ，数Ｂ 「物基・物」 「化基・化」 ┐から１ 「生基・生」 ┘ 英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ）
		後期 ３月12日			その他	面接 個人面接／10分程度／面接員複数
	機械知能システム理工学科 73人 前期　60 後期　13	前期 ２月25日			数 理 外	数Ⅰ，数Ⅱ，数Ⅲ，数Ａ，数Ｂ 「物基・物」 「化基・化」 ┘から１ 英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ）
		後期 ３月12日			その他	面接 個人面接／15～20分／面接員複数

理工学部注意事項

㈱１　大学入試センター試験の利用教科・科目について

⑴「地理歴史」及び「公民」については、同一名称を含む科目（「地理Ａ」と「地理Ｂ」、「倫理」と「倫理、政治・経済」等）を組み合わせて選択することはできません。

⑵「地理歴史」及び「公民」について、計２科目受験している場合は、第１解答科目の成績を用います。

㈱２　大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等について

⑴　大学入試センター試験の英語の配点については、筆記とリスニングの合計点(250点満点)に0.8を掛け、200点に換算します。なお、リスニングを免除された場合については、筆記の点数(200点)を配点とします。

⑵　前期日程個別学力検査の理科の得点は素点としますが、得点調整を行うことがあります。

⑶　配点に＊印を付してある教科は選択教科を表します。

⑷　面接（※印）は総合判定の資料とします。なお、面接時間は状況に応じて変わる場合があります。また、面接時間の長さは合否には影響しません。

の実施教科・科目等について

２段階選抜	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	実技	面接	配点合計	特別の選抜方法等
	センター試験	200	＊100	＊100	200	200	200				900	AO 推薦 帰国生 外国人 追加合格 欠員補充
	個別学力検査等				200	200	100				500	
	計	200	＊100	＊100	400	400	300				1400	
	センター試験	200	＊100	＊100	200	200	200				900	
	個別学力検査等									※		
	計	200	＊100	＊100	200	200	200				900	
	センター試験	200	＊100	＊100	200	200	200				900	AO 推薦 帰国生 外国人 追加合格 欠員補充
	個別学力検査等				200	200	100				500	
	計	200	＊100	＊100	400	400	300				1400	
	センター試験	200	＊100	＊100	200	200	200				900	
	個別学力検査等									※		
	計	200	＊100	＊100	200	200	200				900	

平成30年度　群馬大学入学者選抜（一般入試）の実施教科・科目等について

別表３

学部・学科等名及び入学定員等（平成29年度志願倍率）		学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等	
			教科	科目名等	教科等	科目名等
理工学部 341人 前期　293 後期　48 〔3.3〕	環境創生理工学科 60人 前期　50 後期　10	前期 ２月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国【必須】 世Ａ，世Ｂ，日Ａ，日Ｂ，地理Ａ，地理Ｂ，現社，倫，政経，倫・政経　から１ 数Ⅰ・数Ａ【必須】 数Ⅱ・数Ｂ，簿，情報から１ 物，化，生，地学から２ 英【必須】 〔５教科７科目〕	数 理 外	数Ⅰ，数Ⅱ，数Ⅲ，数Ａ，数Ｂ 「物基，物」「化基，化」から１ 英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ）
		後期 ３月12日			その他	面接 集団面接／約20分／面接員複数
	電子情報理工学科 80人 前期　70 後期　10	前期 ２月25日			数 理 外	数Ⅰ，数Ⅱ，数Ⅲ，数Ａ，数Ｂ 「物基，物」「化基，化」から１ 英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ）
		後期 ３月12日			その他	面接 個人面接／約10分／面接員複数
	総合理工学科（フレックス制） 30人 前期　27 後期　3	前期 ２月25日			数 理 外	数Ⅰ，数Ⅱ，数Ⅲ，数Ａ，数Ｂ 「物基，物」「化基，化」「生基，生」から１ 英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ）
		後期 ３月12日			その他	面接 個人面接／約10分／面接員複数

㈱ 注意事項が67ページに記載してありますので、参照してください。

２段階選抜	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	実技	面接	配点合計	特別の選抜方法等
	センター試験	200	＊100	＊100	200	200	200				900	AO 推薦 帰国生 外国人 追加合格 欠員補充
	個別学力検査等				200	200	100				500	
	計	200	＊100	＊100	400	400	300				1400	
	センター試験	200	＊100	＊100	200	200	200				900	
	個別学力検査等									※		
	計	200	＊100	＊100	200	200	200				900	
	センター試験	200	＊100	＊100	200	200	200				900	AO 推薦 帰国生 外国人 追加合格 欠員補充
	個別学力検査等				200	200	100				500	
	計	200	＊100	＊100	400	400	300				1400	
	センター試験	200	＊100	＊100	200	200	200				900	
	個別学力検査等									※		
	計	200	＊100	＊100	200	200	200				900	
	センター試験	200	＊100	＊100	200	200	200				900	社会人 追加合格 欠員補充
	個別学力検査等				200	200	100				500	
	計	200	＊100	＊100	400	400	300				1400	
	センター試験	200	＊100	＊100	200	200	200				900	
	個別学力検査等									※		
	計	200	＊100	＊100	200	200	200				900	

〔別紙〕

音楽・美術・保健体育実技試験内容

〔Ⅰ〕音　楽

○声楽試験と器楽試験を次のとおり行います。
○前期日程
1　声楽試験

次の(1)、(2)を演奏してください。
(1)　コールユーブンゲン視唱
　コールユーブンゲン　第１巻（No.1 ～ No.59）より当日１曲指定します。
【注】※　以下の楽譜を参考にしてください（試験において使用する楽譜は本学で用意します）。
　　大阪開成館：『全訳コールユーブンゲン』
　　音楽之友社：『コールユーブンゲン　巻１』
　　全音楽譜出版社：『全訳コールユーブンゲン　１』
(2)　以下の歌曲の中から任意の１曲を原語により暗譜で演奏してください。
　(a)　Scarlatti,A.：Se Florindo è fadele「フロリンドが誠実なら」（変イ長調／変ロ長調）
　(b)　Gasparini,F.：Lasciar d'amarti「あなたへの愛を捨てることは」（ヘ短調／ト短調）
【注】※１　調性を必ず選択してください。選択していないものは受け付けません。また、出願後の変更は認めません。
　　※２　伴奏者は本学で用意します。
　　※３　邦訳・調性は全音楽譜出版社『イタリア歌曲集１』によります。

2　器楽試験

選択課題
　下記、(a)、(b)いずれかを選択してください。
(a)　ピアノ
　以下の①、②より各１曲を選び、２曲を演奏してください。演奏曲順は①－②とします。暗譜演奏で、繰り返しは省略してください。
①　任意の練習曲（ただし以下の曲集より選んでください）。
　Czerny：Etudes de Mécanisme Op.849（ツェルニー30番練習曲）
　Czerny：Schule der Geläufigkeit Op.299（ツェルニー40番練習曲）
　Cramer=Bülow : 60 Ausgewählte Etüden（クラーマー＝ビューロー60練習曲）
　Moszkowski：Vingt petites études pour piano Op.91（モシュコフスキー20の小練習曲）
　【注】※　「ツェルニー」を「チェルニー」と表記してある楽譜もあります。
②　任意の自由曲

(b)　管、弦、打楽器（邦楽器を含む）
　次の①、②を演奏してください。暗譜演奏で繰り返しは省略してください。
①　次の楽器の中から一つを選択し、中級程度以上の任意の楽曲又は練習曲を無伴奏で演奏してください（４分程度）。
　管楽器：フルート、オーボエ、クラリネット、サキソフォン、ファゴット、ホルン、トランペット、トロンボーン、
　　ユーフォニアム、テューバ
　弦楽器：ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス
　打楽器：小太鼓、マリンバ
　邦楽器：箏、三味線
　【注】※　使用する楽器は各自持参してください（マリンバは大学のもの［音域Ａ～Ｃ　４⅓オクターヴ］を使用し、マレットは持参してください）。
②　任意の楽曲又は練習曲をピアノで演奏してください。

㈱　声楽試験及び器楽試験においては、演奏を途中で打ち切ることがあります。

○後期日程
1　声楽試験

前期日程試験と同じ課題

2　器楽試験

前期日程試験と同じ課題

㈱　声楽試験及び器楽試験においては、演奏を途中で打ち切ることがあります。

〔Ⅱ〕美　術

○前期日程
　木炭デッサン
　・モチーフ、イーゼル、カルトン、木炭紙、定着液は本学で用意します。
　・木炭、消具、下敷用木炭紙等は、受験者が持参してください。
　・試験時間は５時間です。
○後期日程
　鉛筆デッサン
　・モチーフ、イーゼル、カルトン、描画用紙、定着液は本学で用意します。
　・鉛筆、消具等は、受験者が持参してください。
　・試験時間は５時間です。

〔Ⅲ〕保　健　体　育

○前期日程
　１．基礎的運動能力に関する試験
　２．スポーツ種目の技能に関する試験：次のスポーツ種目から１種目を選択
　　体操競技　陸上競技　ダンス　柔道　剣道　水泳　テニス　ソフトテニス　バスケットボール　バレーボール
　　サッカー　野球　ソフトボール
　※　実技試験に必要な運動用具（グラウンド用シューズ、体育館用シューズ及び選択するスポーツ種目に必要な服装・用具（剣道防具、柔道着、スパイク等））は、受験者が持参してください。
○後期日程
　基礎的運動能力に関する試験
　※　実技試験に必要な運動用具（グラウンド用シューズ及び体育館用シューズ）は、受験者が持参してください。

7．特別入試

(1) アドミッション・オフィス（ＡＯ）入試

専門学科・総合学科特別入試（理工学部）

（1／1）

実施学部・学科名	理工学部	化学・生物化学科 機械知能システム理工学科 環境創生理工学科 電子情報理工学科
募集人員	（学科） 化学・生物化学科 機械知能システム理工学科 環境創生理工学科 電子情報理工学科	（募集人員） ２名 ４名 ２名 ５名
出願資格 出願要件	高等学校若しくは中等教育学校の、職業に関する学科又は総合学科を卒業した者、又は平成30年３月卒業見込みの者で、下記の要件を満たす者 ◎　化学・生物化学科／環境創生理工学科／電子情報理工学科 次の(1)(2)を全て満たす者 (1)　出身学校において職業に関する教科・科目(注)を20単位以上修得又は修得見込みの者 (2)　合格した場合は、入学することを確約できる者 (注)　職業に関する教科・科目とは、農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉の各専門教科に属する科目に、「産業社会と人間」（これに準ずる学校設定教科・科目を含む。）を加えた教科・科目をいう。 ◎　機械知能システム理工学科 次の(1)(2)を全て満たす者 (1)　出身学校において工業又は情報に関する教科・科目を20単位以上修得又は修得見込みの者 (2)　合格した場合は、入学することを確約できる者	
選抜方法	第１次選抜（出願時提出書類による審査）と、第２次選抜（第１次選抜合格者に対して行う試験）の結果を総合して選抜します。 **第１次選抜** 出願時に提出する下記書類により、志望学科での学修に対する適性･意欲を評価します。 ①　調査書 ②　志望理由書 「志望学科への進学を希望する理由」及び「大学卒業後の進路･将来の希望」について、記述してください。（大学指定様式。各400字程度、志願者自筆） ③　自己推薦書 これまでの活動や体験に基づいて、志望学科で勉強する適性と意欲を備えていることをアピールしてください。（大学指定様式。800字程度、志願者自筆） また、記載内容について客観的に証明できる資料がある場合は、３点以内（全体でＡ４用紙３枚以内）で添付してください（添付した資料は返却できませんので、原本を手元に残したい場合は、コピーを提出してください。）。 証明資料の例：公的職業資格の資格証、検定試験の成績証、高大連携プログラムへの参加記録、理工学に関わるコンテスト・研究発表会等への参加・入賞記録、理工学に関わるクラブ活動記録など。 **第２次選抜** 第１次選抜の合格者に対して、下記の試験等を実施し、基礎学力・勉学意欲･目的意識･表現力・コミュニケーション力･論理的思考力等を総合的に評価します。 ①　面接（全学科） 化学・生物化学科：個人面接／25分程度／面接員複数／口頭試問を含む 機械知能システム理工学科：個人面接／15～20分／面接員複数／口頭試問を含む 環境創生理工学科：個人面接／15～30分程度／面接員複数／口頭試問を含む 電子情報理工学科：個人面接／約15分／面接員複数／口頭試問を含む ②　小論文（機械知能システム理工学科のみ） 課題は試験当日に提示します。 ③　プレゼンテーション（電子情報理工学科のみ） 電子情報技術関連のこれまでの優れた活動や電子情報技術利用の新しいアイデア等の自己PRを10分以内で行ってください。 プレゼンテーション用資料（片面印刷。図表を含めてＡ４用紙２枚以内で、資料が２枚の場合は１部ずつホチキスで留めること。）を５部作成し、試験当日に持参してください。プレゼンテーションに使用できる物は、上記の持参したプレゼンテーション用資料のみとします。ただし、補足説明が必要な場合に限り、本学で用意するホワイトボードに手書きで板書することを認めます。	
出願期間	平成29年８月１日(火)から８月４日(金)	
選抜期日（第２次選抜）	平成29年９月８日(金)	
合格者発表	第１次選抜	平成29年９月１日(金)
	第２次選抜	平成29年９月27日(水)
その他	アドミッション・オフィス（ＡＯ）入試〈専門学科・総合学科特別入試〉学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。また、面接時間の長さは合否には影響しません。	

(2) 推薦入試

推薦入試（教育学部）

（1／8）

実施学部課程・専攻名	教育学部	学校教育教員養成課程・国語専攻
募集人員	６名	
出願要件	次の各項のいずれかに該当する者で、学校長が責任をもって推薦でき、合格した場合は入学することを確約できる者 １．学習成績概評がＡの者 ２．学習成績概評がＢ以上で、国語の評定平均値が4.3以上の者	
選抜方法	出身学校長から推薦された者について、選考を行い合格者を決定します。 選考は、面接（集団面接／約25分／面接員複数／口頭試問含む）・小論文及び出願書類（調査書、推薦書、志願理由書（志願者本人が自筆したもの））を総合して判定します。 ◎推薦書について 高校在学中の「活動歴」がある場合、推薦書の「その他の特記事項」欄に記入し、その内容を確認できる資料を提出してください。ただし、提出できる点数は、原則３点以内（特に様式は指定せず、コピーでよいが、全体でＡ４用紙３枚以内）とします。 （活動歴の例） 英語の資格・検定試験の成績又はスコア、スーパーグローバルハイスクール又はスーパーサイエンスハイスクール活動への参加や発表、職業分野の資格・検定試験、ジュニアマイスターの受賞、コンクール・コンテスト等各種大会への参加や受賞、留学経験、社会貢献活動への参加や受賞、論文・発表資料など。	
出願期間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選抜期日	平成29年11月18日(土)	
合格者発表	平成29年12月５日(火)	
その他	推薦入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

推薦入試（教育学部）

実施学部 課程・専攻名	教育学部	学校教育教員養成課程・社会専攻
募集人員	５名	
出願要件	次の各項のいずれかに該当する者で、学校長が責任をもって推薦でき、合格した場合は入学することを確約できる者 １．学習成績概評がＡの者 ２．学習成績概評がＢ以上で、地理歴史及び公民の全履修科目の評定平均値が4.3以上の者	
選抜方法	出身学校長から推薦された者について、選考を行い合格者を決定します。 選考は、面接（集団面接／約30分／面接員複数）・小論文及び出願書類（調査書、推薦書、志願理由書（志願者本人が自筆したもの））を総合して判定します。 ◎推薦書について 高校在学中の「活動歴」がある場合、推薦書の「その他の特記事項」欄に記入し、その内容を確認できる資料を提出してください。ただし、提出できる点数は、原則３点以内（特に様式は指定せず、コピーでよいが、全体でＡ４用紙３枚以内）とします。 （活動歴の例） 英語の資格・検定試験の成績又はスコア、スーパーグローバルハイスクール又はスーパーサイエンスハイスクール活動への参加や発表、職業分野の資格・検定試験、ジュニアマイスターの受賞、コンクール・コンテスト等各種大会への参加や受賞、留学経験、社会貢献活動への参加や受賞、論文・発表資料など。	
出願期間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選抜期日	平成29年11月18日(土)	
合格者発表	平成29年12月５日(火)	
その他	推薦入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

推薦入試（教育学部）

実施学部 課程・専攻名	教育学部	学校教育教員養成課程・数学専攻
募集人員	５名	
出願要件	次の各項に該当する者で、学校長が責任をもって推薦でき、合格した場合は入学することを確約できる者 １．数Ⅱ、数Ⅲ、数Ｂを履修（見込みを含みます）している者 ２．学習成績概評がＢ以上で、数学の評定平均値が4.3以上の者	
選抜方法	出身学校長から推薦された者について、選考を行い合格者を決定します。 選考は、面接（集団面接／20～25分／面接員複数／口頭試問を含む）・小論文（主に数学的思考力を問う）及び出願書類（調査書、推薦書、志願理由書（志願者本人が自筆したもの））を総合して判定します。 ◎推薦書について 高校在学中の「活動歴」がある場合、推薦書の「その他の特記事項」欄に記入し、その内容を確認できる資料を提出してください。ただし、提出できる点数は、原則３点以内（特に様式は指定せず、コピーでよいが、全体でＡ４用紙３枚以内）とします。 （活動歴の例） 英語の資格・検定試験の成績又はスコア、スーパーグローバルハイスクール又はスーパーサイエンスハイスクール活動への参加や発表、職業分野の資格・検定試験、ジュニアマイスターの受賞、コンクール・コンテスト等各種大会への参加や受賞、留学経験、社会貢献活動への参加や受賞、論文・発表資料など。	
出願期間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選抜期日	平成29年11月18日(土)	
合格者発表	平成29年12月５日(火)	
その他	推薦入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

推薦入試（教育学部）

（4／8）

実施学部 課程・専攻名	教育学部	学校教育教員養成課程・理科専攻
募集人員	４名	
出願要件	次の各項のいずれかに該当する者で、学校長が責任をもって推薦でき、合格した場合は入学することを確約できる者 １．学習成績概評がＡの者 ２．学習成績概評がＢかつ理科の評定平均値が4.1以上の者で、物理、化学、生物、地学のうち１科目以上を履修した者又は履修見込みの者	
選抜方法	出身学校長から推薦された者について、選考を行い合格者を決定します。 選考は、面接（集団面接／30～40分／面接員複数／口頭試問を含む）・小論文及び出願書類（調査書、推薦書、志願理由書（志願者本人が自筆したもの））を総合して判定します。 ◎推薦書について 高校在学中の「活動歴」がある場合、推薦書の「その他の特記事項」欄に記入し、その内容を確認できる資料を提出してください。ただし、提出できる点数は、原則３点以内（特に様式は指定せず、コピーでよいが、全体でＡ４用紙３枚以内）とします。 （活動歴の例） 英語の資格・検定試験の成績又はスコア、スーパーグローバルハイスクール又はスーパーサイエンスハイスクール活動への参加や発表、職業分野の資格・検定試験、ジュニアマイスターの受賞、コンクール・コンテスト等各種大会への参加や受賞、留学経験、社会貢献活動への参加や受賞、論文・発表資料など。	
出願期間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選抜期日	平成29年11月18日(土)	
合格者発表	平成29年12月５日(火)	
その他	推薦入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

推薦入試（教育学部）

（5／8）

実施学部 課程・専攻名	教育学部	学校教育教員養成課程・音楽専攻
募集人員	２名	
出願要件	次の各項のいずれかに該当する者で、学校長が責任をもって推薦でき、合格した場合は入学することを確約できる者 １．学習成績概評がＢ以上の者 ２．音楽の評定平均値が4.0以上の者	
選抜方法	出身学校長から推薦された者について、選考を行い合格者を決定します。 選考は、面接（集団面接／15～20分／面接員複数／口頭試問を含む）・実技試験及び出願書類（調査書、推薦書、志願理由書（志願者本人が自筆したもの））を総合して判定します。 ◎推薦書について 高校在学中の「活動歴」がある場合、推薦書の「その他の特記事項」欄に記入し、その内容を確認できる資料を提出してください。ただし、提出できる点数は、原則３点以内（特に様式は指定せず、コピーでよいが、全体でＡ４用紙３枚以内）とします。 （活動歴の例） 英語の資格・検定試験の成績又はスコア、スーパーグローバルハイスクール又はスーパーサイエンスハイスクール活動への参加や発表、職業分野の資格・検定試験、ジュニアマイスターの受賞、コンクール・コンテスト等各種大会への参加や受賞、留学経験、社会貢献活動への参加や受賞、論文・発表資料など。	
実技試験内容	○声楽試験と器楽試験を次のとおり行います。 １．声楽試験 次の(1)、(2)を演奏してください。 (1)　コールユーブンゲン視唱 コールユーブンゲン　第１巻（No.1～No.87）より当日１曲指定します。 【注】※　以下の楽譜を参考にしてください（試験において使用する楽譜は本学で用意します）。 大阪開成館：『全訳コールユーブンゲン』 音楽之友社：『コールユーブンゲン　巻１』 全音楽譜出版社：『全訳コールユーブンゲン　１』 (2)　以下の歌曲の中から任意の１曲を原語により暗譜で演奏してください。 (a)　Scarlatti,A.：Se Florindo è fedele「フロリンドが誠実なら」（変イ長調／変ロ長調） (b)　Gasparini,F.：Lasciar d'amarti「あなたへの愛を捨てることは」（ヘ短調／ト短調） 【注】※１　調性を必ず選択してください。選択していないものは受け付けません。また、出願後の変更は認めません。 ※２　伴奏者は本学で用意します。 ※３　邦訳・調性は全音楽譜出版社『イタリア歌曲集１』によります。 ２．器楽試験 一般入試と同じ課題（71ページ参照） （注）声楽試験及び器楽試験においては、演奏を途中で打ち切ることがあります。	
出願期間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選抜期日	平成29年11月18日(土)	
合格者発表	平成29年12月５日(火)	
その他	推薦入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

実施学部 課程・専攻名	教育学部	学校教育教員養成課程・美術専攻
募集人員	２名	
出願要件	次の各項のいずれかに該当する者で、学校長が責任をもって推薦でき、合格した場合は入学することを確約できる者 １．学習成績概評がＢ以上で、美術又は工芸の評定平均値が4.0以上の者 ２．学習成績概評がＢ以上で、美術及び工芸並びにこれらに類する科目（素描、絵画、彫刻、ビジュアルデザイン、クラフトデザインなど）について計10単位以上修得又は修得見込みで、その評定平均値が3.5以上の者	
選抜方法	出身学校長から推薦された者について、選考を行い合格者を決定します。 選考は、面接（集団面接／約25分～30分／面接員複数）・実技試験及び出願書類（調査書、推薦書、志願理由書（志願者本人が自筆したもの）、作品制作証明書（※）、美術活動調査書、入選・入賞を確認できる書類（コピーでも可））を総合して判定します。 ◎推薦書について 高校在学中の「活動歴」がある場合、推薦書の「その他の特記事項」欄に記入し、その内容を確認できる資料を提出してください。ただし、提出できる点数は、原則３点以内（特に様式は指定せず、コピーでよいが、全体でＡ４用紙３枚以内）とします。 （活動歴の例） 英語の資格・検定試験の成績又はスコア、スーパーグローバルハイスクール又はスーパーサイエンスハイスクール活動への参加や発表、職業分野の資格・検定試験、ジュニアマイスターの受賞、コンクール・コンテスト等各種大会への参加や受賞、留学経験、社会貢献活動への参加や受賞、論文・発表資料など。 ※　志願者本人が出身学校在籍中に制作した作品の写真（１作品につき写真１枚）を貼り付けて提出する。 ・５点以内とする。 ・作品の分野は問わない。	
実技試験内容	用意された材料・用具を用いた立体造形物の制作、並びにそれをモチーフとする鉛筆素描。 ・素描のための鉛筆、消具等は、受験者が用意してください。 ・試験時間は、３時間です。	
出願期間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選抜期日	平成29年11月18日(土)	
合格者発表	平成29年12月５日(火)	
その他	推薦入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

実施学部 課程・専攻名	教育学部	学校教育教員養成課程・保健体育専攻
募集人員	５名	
出願要件	出身学校１校につき１名とし、次の各項に該当する者で、学校長が責任をもって推薦でき、合格した場合は入学することを確約できる者 １．学習成績概評がＢ以上の者 ２．スポーツ活動の成績がブロック大会（例：関東大会など）出場以上の者	
選抜方法	出身学校長から推薦された者について、選考を行い合格者を決定します。 選考は、面接（集団面接及び個人面接、集団面接：30分程度／面接員複数／口頭試問を含む、個人面接：15分程度／面接員複数／主に競技歴の確認）・小論文及び出願書類（調査書、推薦書、志願理由書（志願者本人が自筆したもの）、スポーツ活動調査書、競技成績を確認できる資料等（コピーでも可））を総合して判定します。 ◎推薦書について 高校在学中の「活動歴」がある場合、推薦書の「その他の特記事項」欄に記入し、その内容を確認できる資料を提出してください。ただし、提出できる点数は、原則３点以内（特に様式は指定せず、コピーでよいが、全体でＡ４用紙３枚以内）とします。 （活動歴の例） 英語の資格・検定試験の成績又はスコア、スーパーグローバルハイスクール又はスーパーサイエンスハイスクール活動への参加や発表、職業分野の資格・検定試験、ジュニアマイスターの受賞、コンクール・コンテスト等各種大会への参加や受賞、留学経験、社会貢献活動への参加や受賞、論文・発表資料など。	
出願期間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選抜期日	平成29年11月18日(土)	
合格者発表	平成29年12月５日(火)	
その他	推薦入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

推薦入試（教育学部）

（8／8）

実施学部 課程・専攻名	教育学部	学校教育教員養成課程・障害児教育専攻
募集人員	４名	
出願要件	学習成績概評がＢ以上の者で、学校長が責任をもって推薦でき、合格した場合は入学することを確約できる者	
選抜方法	出身学校長から推薦された者について、選考を行い合格者を決定します。 選考は、面接（集団面接／約30分／面接員複数）・小論文及び出願書類（調査書、推薦書、志願理由書（志願者本人が自筆したもの））を総合して判定します。 ◎推薦書について 高校在学中の「活動歴」がある場合、推薦書の「その他の特記事項」欄に記入し、その内容を確認できる資料を提出してください。ただし、提出できる点数は、原則３点以内（特に様式は指定せず、コピーでよいが、全体でＡ４用紙３枚以内）とします。 （活動歴の例） 英語の資格・検定試験の成績又はスコア、スーパーグローバルハイスクール又はスーパーサイエンスハイスクール活動への参加や発表、職業分野の資格・検定試験、ジュニアマイスターの受賞、コンクール・コンテスト等各種大会への参加や受賞、留学経験、社会貢献活動への参加や受賞、論文・発表資料など。	
出願期間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選抜期日	平成29年11月18日(土)	
合格者発表	平成29年12月５日(火)	
その他	推薦入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

推薦入試（社会情報学部）

実施学部・学科名	社会情報学部	社会情報学科
募集人員	28名	
出願要件	調査書の学習成績全体の評定平均値が4.0以上の者で、出身学校長が責任をもって推薦でき、合格した場合は入学することを確約できる者	
選抜方法	出身学校長から推薦された者について、選考を行い合格者を決定します。 選考は、面接（個人面接／15分／面接員複数）・小論文及び出願書類（調査書、推薦書、志願理由書（志願者本人が自筆したもの））を総合して判定します。 ◎推薦書について 高校在学中の「活動歴」がある場合、推薦書の「その他の特記事項」欄に記入し、その内容を確認できる資料を提出してください。ただし、提出できる点数は、原則３点以内（特に様式は指定せず、コピーでよいが、全体でＡ４用紙３枚以内）とします。 （活動歴の例） 英語の資格・検定試験の成績又はスコア、スーパーグローバルハイスクール又はスーパーサイエンスハイスクール活動への参加や発表、職業分野の資格・検定試験、ジュニアマイスターの受賞、コンクール・コンテスト等各種大会への参加や受賞、留学経験、社会貢献活動への参加や受賞、論文・発表資料など。	
出願期間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選抜期日	平成29年11月18日(土)	
合格者発表	平成29年12月５日(火)	
その他	推薦入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

推薦入試（医学部医学科）

実施学部・学科名	医　学　部	医学科
募　集　人　員	35名	
出　願　要　件	出身学校１校につき、一般枠と地域医療枠を合わせて５名以内とし、次の各項に該当する者 １．出身学校における調査書類、学習成績、適性評価等に優れ、かつ、調査書の学習成績概評がＡ段階に属し、人物も優れていて、学校長が責任をもって推薦できる者 ※　Ⓐに該当する者については、調査書にⒶと表示してください。 ２．出身学校において、数学については、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ａ及び数学Ｂのうち２科目以上、理科については、物理、化学及び生物のうち２科目以上を履修又は履修見込みの者 ３．合格した場合は、入学することを確約できる者	
選　抜　方　法	出身学校長から推薦された者について、選考を行い合格者を決定します。 選考は、面接（集団面接／40分／面接員複数）・小論文及び出願書類（調査書、推薦書、適性資質調査書、志願理由書（地域医療枠で出願する者のみ））を総合して判定します。 下表出願区分のいずれで出願しても合格者の判定は同一の基準により実施します。 なお、地域医療枠で出願した場合、合格者判定の結果、成績が募集人員内（35名）にあると判定され、成績順に決められる地域医療枠合格者（10名程度）よりも下位である場合は、一般枠として合格となります。 出願区分 1　「一般枠」 2　「地域医療枠」 ◎推薦書について 高校在学中の「活動歴」がある場合、推薦書の「その他の特記事項」欄に記入し、その内容を確認できる資料を提出してください。ただし、提出できる点数は、原則３点以内（特に様式は指定せず、コピーでよいが、全体でＡ４用紙３枚以内）とします。 （活動歴の例） 英語の資格・検定試験の成績又はスコア、スーパーグローバルハイスクール又はスーパーサイエンスハイスクール活動への参加や発表、職業分野の資格・検定試験、ジュニアマイスターの受賞、コンクール・コンテスト等各種大会への参加や受賞、留学経験、社会貢献活動への参加や受賞、論文・発表資料など。	
出　願　期　間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選　抜　期　日	平成29年11月18日(土)、19日(日)	
合　格　者　発　表	平成29年12月５日(火)	
そ　の　他	推薦入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

推薦入試（医学部保健学科）

実施学部・学科名	医　学　部	保健学科
募　集　人　員	（専　攻）　（募集人員） 看護学専攻　30名 検査技術科学専攻　９名 理学療法学専攻　８名 作業療法学専攻　８名	
出　願　要　件	次の各項に該当する者で、出身学校長が責任をもって推薦でき、合格した場合は入学することを確約できる者 １．出身学校における学習成績及び人物に優れ、調査書の学習成績の全体の評定平均値が3.8以上の者 ２．出身学校において、数学については、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ａ及び数学Ｂのうち２科目以上、理科については、物理、化学及び生物のうち２科目以上を履修又は履修見込みの者	
選　抜　方　法	出身学校長から推薦された者について、選考を行い合格者を決定します。 選考は、面接（集団面接／20分／面接員複数）、小論文Ⅰ（英語による出題）・小論文Ⅱ（文系の出題）・小論文Ⅲ（理系の出題）及び出願書類（調査書、推薦書）を総合して判定します。 ◎推薦書について 高校在学中の「活動歴」がある場合、推薦書の「その他の特記事項」欄に記入し、その内容を確認できる資料を提出してください。ただし、提出できる点数は、原則３点以内（特に様式は指定せず、コピーでよいが、全体でＡ４用紙３枚以内）とします。 （活動歴の例） 英語の資格・検定試験の成績又はスコア、スーパーグローバルハイスクール又はスーパーサイエンスハイスクール活動への参加や発表、職業分野の資格・検定試験、ジュニアマイスターの受賞、コンクール・コンテスト等各種大会への参加や受賞、留学経験、社会貢献活動への参加や受賞、論文・発表資料など。	
出　願　期　間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選　抜　期　日	平成29年11月17日(金)、18日(土)	
合　格　者　発　表	平成29年12月５日(火)	
そ　の　他	推薦入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

推薦入試（理工学部）

（1／2）

実施学部・課程・専攻名	理工学部	化学・生物化学科
募集人員	60名	
出願要件	出身学校における成績及び人物に優れ、学校長が責任をもって推薦できる者で合格した場合は、入学することを確約できる者	
選抜方法	以下の３項目を総合して判定します。 （１）出願書類（調査書、推薦書） （２）面接（個人面接／10分程度／面接員複数／口頭試問を含む） （３）小論文（下記の内容により、理工学教育を受けるための基礎能力を問います。） 【小論文の出題範囲】 数学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B 理科：化学基礎、化学 ◎推薦書について 高校在学中の「活動歴」がある場合、推薦書の「その他の特記事項」欄に記入し、その内容を確認できる資料を提出してください。ただし、提出できる点数は、原則３点以内（特に様式は指定せず、コピーでよいが、全体でＡ４用紙３枚以内）とします。 （活動歴の例） 英語の資格・検定試験の成績又はスコア、スーパーグローバルハイスクール又はスーパーサイエンスハイスクール活動への参加や発表、職業分野の資格・検定試験、ジュニアマイスターの受賞、コンクール・コンテスト等各種大会への参加や受賞、留学経験、社会貢献活動への参加や受賞、論文・発表資料など。	
出願期間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選抜期日	平成29年11月22日(水)	
合格者発表	平成29年12月５日(火)	
その他	推薦入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。また、面接時間の長さは合否には影響しません。	

推薦入試（理工学部）

（2／2）

実施学部・課程・専攻名	理工学部	機械知能システム理工学科 環境創生理工学科 電子情報理工学科
募集人員	（学　科）　（募集人員） 機械知能システム理工学科　33名 環境創生理工学科　28名 電子情報理工学科　35名	
出願要件	出身学校における成績及び人物に優れ、学校長が責任をもって推薦できる者で合格した場合は、入学することを確約できる者	
選抜方法	以下の２項目を総合して判定します。 （１）出願書類（調査書、推薦書） （２）面接 機械知能システム理工学科：個人面接／15～20分／面接員複数／口頭試問を含む 環境創生理工学科：個人面接／約20分／面接員複数／口頭試問を含む 電子情報理工学科：個人面接／約10分／面接員複数／口頭試問を含む ◎推薦書について 高校在学中の「活動歴」がある場合、推薦書の「その他の特記事項」欄に記入し、その内容を確認できる資料を提出してください。ただし、提出できる点数は、原則３点以内（特に様式は指定せず、コピーでよいが、全体でＡ４用紙３枚以内）とします。 （活動歴の例） 英語の資格・検定試験の成績又はスコア、スーパーグローバルハイスクール又はスーパーサイエンスハイスクール活動への参加や発表、職業分野の資格・検定試験、ジュニアマイスターの受賞、コンクール・コンテスト等各種大会への参加や受賞、留学経験、社会貢献活動への参加や受賞、論文・発表資料など。	
出願期間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選抜期日	平成29年11月22日(水)	
合格者発表	平成29年12月５日(火)	
その他	推薦入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。また、面接時間の長さは合否には影響しません。	

(3) 帰国生入試

帰国生入試（教育学部）

実施学部・学科名	教育学部	学校教育教員養成課程・社会専攻
募集人員	若干名	
出願要件	日本国籍を有する者又は日本国に永住権を有する者で、外国に在住し外国の学校教育を受けた者のうち、次のいずれかに該当する者 １．外国及び日本において学校教育における12年の課程を、平成28年４月１日から平成30年３月31日までに修了した者又は修了する見込みの者。ただし外国において、日本の高等学校に当たる在籍期間を含め継続して２年以上学校教育を受けていること。 ２．文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして指定又は認定した在外教育施設に当該課程を含め継続して２年以上在籍し、平成28年４月１日から平成30年３月31日までに当該課程若しくは高等学校の課程を修了した者又は修了する見込みの者。 ３．外国において、次の資格を平成28年（2016年）又は平成29年（2017年）に取得した者で、平成30年３月31日までに18歳に達するもの (1) スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格 (2) ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格（ライフェを含む） (3) フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格 (4) グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格	
選抜方法	選考は、日本語による小論文・面接（集団面接／約30分／面接員複数）及び出願書類を総合して判定します。	
出願期間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選抜期日	平成29年11月18日(土)	
合格者発表	平成29年12月５日(火)	
その他	帰国生入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

帰国生入試（教育学部）

実施学部・学科名	教育学部	学校教育教員養成課程・数学専攻
募集人員	若干名	
出願要件	日本国籍を有する者又は日本国に永住権を有する者で、外国に在住し外国の学校教育を受けた者のうち、次のいずれかに該当する者 １．外国及び日本において学校教育における12年の課程を、平成28年４月１日から平成30年３月31日までに修了した者又は修了する見込みの者。ただし外国において、日本の高等学校に当たる在籍期間を含め継続して２年以上学校教育を受けていること。 ２．文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして指定又は認定した在外教育施設に当該課程を含め継続して２年以上在籍し、平成28年４月１日から平成30年３月31日までに当該課程若しくは高等学校の課程を修了した者又は修了する見込みの者。 ３．外国において、次の資格を平成28年（2016年）又は平成29年（2017年）に取得した者で、平成30年３月31日までに18歳に達するもの (1) スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格 (2) ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格（ライフェを含む） (3) フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格 (4) グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格	
選抜方法	選考は、日本語による小論文・面接（集団面接／20～25分／面接員複数／口頭試問を含む）及び出願書類を総合して判定します。	
出願期間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選抜期日	平成29年11月18日(土)	
合格者発表	平成29年12月５日(火)	
その他	帰国生入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

帰国生入試（教育学部）

実施学部・学科名	教育学部	学校教育教員養成課程・理科専攻
募　集　人　員	若干名	
出　願　要　件	日本国籍を有する者又は日本国に永住権を有する者で、外国に在住し外国の学校教育を受けた者のうち、次のいずれかに該当する者 １．外国及び日本において学校教育における12年の課程を、平成28年４月１日から平成30年３月31日までに修了した者又は修了する見込みの者。ただし外国において、日本の高等学校に当たる在籍期間を含め継続して２年以上学校教育を受けていること。 ２．文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして指定又は認定した在外教育施設に当該課程を含め継続して２年以上在籍し、平成28年４月１日から平成30年３月31日までに当該課程若しくは高等学校の課程を修了した者又は修了する見込みの者。 ３．外国において、次の資格を平成28年（2016年）又は平成29年（2017年）に取得した者で、平成30年３月31日までに18歳に達するもの ⑴　スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格 ⑵　ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格（ライフェを含む） ⑶　フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格 ⑷　グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格
選　抜　方　法	選考は、日本語による小論文・面接（集団面接／30～40分／面接員複数／口頭試問を含む）及び出願書類を総合して判定します。	
出　願　期　間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選　抜　期　日	平成29年11月18日(土)	
合　格　者　発　表	平成29年12月５日(火)	
そ　の　他	帰国生入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

帰国生入試（教育学部）

実施学部・学科名	教育学部	学校教育教員養成課程・音楽専攻
募　集　人　員	若干名	
出　願　要　件	日本国籍を有する者又は日本国に永住権を有する者で、外国に在住し外国の学校教育を受けた者のうち、次のいずれかに該当する者 １．外国及び日本において学校教育における12年の課程を、平成28年４月１日から平成30年３月31日までに修了した者又は修了する見込みの者。ただし外国において、日本の高等学校に当たる在籍期間を含め継続して２年以上学校教育を受けていること。 ２．文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして指定又は認定した在外教育施設に当該課程を含め継続して２年以上在籍し、平成28年４月１日から平成30年３月31日までに当該課程若しくは高等学校の課程を修了した者又は修了する見込みの者。 ３．外国において、次の資格を平成28年（2016年）又は平成29年（2017年）に取得した者で、平成30年３月31日までに18歳に達するもの ⑴　スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格 ⑵　ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格（ライフェを含む） ⑶　フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格 ⑷　グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格
選　抜　方　法	選考は、実技試験・面接（集団面接／15～20分／面接員複数／口頭試問を含む）及び出願書類を総合して判定します。	
実技試験内容	推薦入試と同じ課題（78ページ参照）	
出　願　期　間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選　抜　期　日	平成29年11月18日(土)	
合　格　者　発　表	平成29年12月５日(火)	
そ　の　他	帰国生入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

帰国生入試（教育学部）

実施学部・学科名	教育学部	学校教育教員養成課程・美術専攻
募　集　人　員	若干名	
出　願　要　件	日本国籍を有する者又は日本国に永住権を有する者で、外国に在住し外国の学校教育を受けた者のうち、次のいずれかに該当する者 １．外国及び日本において学校教育における12年の課程を、平成28年４月１日から平成30年３月31日までに修了した者又は修了する見込みの者。ただし外国において、日本の高等学校に当たる在籍期間を含め継続して２年以上学校教育を受けていること。 ２．文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして指定又は認定した在外教育施設に当該課程を含め継続して２年以上在籍し、平成28年４月１日から平成30年３月31日までに当該課程若しくは高等学校の課程を修了した者又は修了する見込みの者。 ３．外国において、次の資格を平成28年（2016年）又は平成29年（2017年）に取得した者で、平成30年３月31日までに18歳に達するもの ⑴　スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格 ⑵　ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格（ライフェを含む） ⑶　フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格 ⑷　グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格
選　抜　方　法	選考は、実技試験・面接（集団面接／約25分～30分／面接員複数）及び出願書類を総合して判定します。	
実技試験内容	推薦入試と同じ課題（79ページ参照）	
出　願　期　間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選　抜　期　日	平成29年11月18日(土)	
合　格　者　発　表	平成29年12月５日(火)	
そ　の　他	帰国生入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

帰国生入試（教育学部）

実施学部・学科名	教育学部	学校教育教員養成課程・障害児教育専攻
募　集　人　員	若干名	
出　願　要　件	日本国籍を有する者又は日本国に永住権を有する者で、外国に在住し外国の学校教育を受けた者のうち、次のいずれかに該当する者 １．外国及び日本において学校教育における12年の課程を、平成28年４月１日から平成30年３月31日までに修了した者又は修了する見込みの者。ただし外国において、日本の高等学校に当たる在籍期間を含め継続して２年以上学校教育を受けていること。 ２．文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして指定又は認定した在外教育施設に当該課程を含め継続して２年以上在籍し、平成28年４月１日から平成30年３月31日までに当該課程若しくは高等学校の課程を修了した者又は修了する見込みの者。 ３．外国において、次の資格を平成28年（2016年）又は平成29年（2017年）に取得した者で、平成30年３月31日までに18歳に達するもの ⑴　スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格 ⑵　ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格（ライフェを含む） ⑶　フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格 ⑷　グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格
選　抜　方　法	選考は、日本語による小論文・面接（集団面接／約30分／面接員複数）及び出願書類を総合して判定します。	
出　願　期　間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選　抜　期　日	平成29年11月18日(土)	
合　格　者　発　表	平成29年12月５日(火)	
そ　の　他	帰国生入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

帰国生入試（社会情報学部）

実施学部・学科名	社会情報学部	社会情報学科
募　集　人　員	若干名	
出　願　要　件	日本国籍を有する者又は日本国に永住権を有する者で、外国に在住し外国の学校教育を受けた者のうち、次のいずれかに該当する者 １．外国及び日本において学校教育における12年の課程を、平成28年４月１日から平成30年３月31日までに修了した者又は修了する見込みの者。ただし外国において、日本の高等学校に当たる在籍期間を含め継続して２年以上学校教育を受けていること。 ２．文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして指定又は認定した在外教育施設に当該課程を含め継続して２年以上在籍し、平成28年４月１日から平成30年３月31日までに当該課程若しくは高等学校の課程を修了した者又は修了する見込みの者。 ３．外国において、次の資格を平成28年（2016年）又は平成29年（2017年）に取得した者で、平成30年３月31日までに18歳に達するもの ⑴　スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格 ⑵　ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格（ライフェを含む） ⑶　フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格 ⑷　グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格
選　抜　方　法	選考は、日本語による小論文・面接（個人面接／15分／面接員複数）・学力テスト（数学及び英語）及び出願書類を総合して判定します。	
出　願　期　間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選　抜　期　日	平成29年11月18日(土)	
合　格　者　発　表	平成29年12月５日(火)	
そ　の　他	帰国生入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

帰国生入試（医学部医学科）

実施学部・学科名	医　学　部	医　学　科
募　集　人　員	若干名	
出　願　要　件	日本国籍を有する者又は日本国に永住権を有する者で、外国に在住し外国の学校教育を受けた者のうち、次のいずれかに該当する者 １．外国及び日本において学校教育における12年の課程を、平成28年４月１日から平成30年３月31日までに修了した者又は修了する見込みの者。ただし外国において、日本の高等学校に当たる在籍期間を含め継続して２年以上学校教育を受けていること。 ２．文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして指定又は認定した在外教育施設に当該課程を含め継続して２年以上在籍し、平成28年４月１日から平成30年３月31日までに当該課程若しくは高等学校の課程を修了した者又は修了する見込みの者。 ３．外国において、次の資格を平成28年（2016年）又は平成29年（2017年）に取得した者で、平成30年３月31日までに18歳に達するもの ⑴　スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格 ⑵　ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格（ライフェを含む） ⑶　フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格 ⑷　グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格
選　抜　方　法	選考は、数学、理科、小論文、面接（個人面接／25分／面接員複数）及び出願書類を総合して判定します（大学入試センター試験は課しません）。 なお、出願要件３の資格取得者（国際バカロレア資格等取得者）、TOEIC、TOEFL等の語学検定取得者は、出願時に成績・スコアを提出することにより総合判定の参考とします。	
出　願　期　間	平成30年１月22日(月)から１月31日(水)	
選　抜　期　日	平成30年２月25日(日)、26日(月)	
合　格　者　発　表	平成30年３月７日(水)	
そ　の　他	帰国生入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

帰国生入試（医学部保健学科）

実施学部・学科名	医　学　部	保健学科
募　集　人　員	各専攻とも若干名	
出　願　要　件	日本国籍を有する者又は日本国に永住権を有する者で、外国に在住し外国の学校教育を受けた者のうち、次のいずれかに該当する者 １．外国及び日本において学校教育における12年の課程を、平成28年４月１日から平成30年３月31日までに修了した者又は修了する見込みの者。ただし外国において、日本の高等学校に当たる在籍期間を含め継続して２年以上学校教育を受けていること。 ２．文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして指定又は認定した在外教育施設に当該課程を含め継続して２年以上在籍し、平成28年４月１日から平成30年３月31日までに当該課程若しくは高等学校の課程を修了した者又は修了する見込みの者。 ３．外国において、次の資格を平成28年（2016年）又は平成29年（2017年）に取得した者で、平成30年３月31日までに18歳に達するもの ⑴　スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格 ⑵　ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格（ライフェを含む） ⑶　フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格 ⑷　グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格	
選　抜　方　法	選考は、小論文Ⅰ（英語による出題）・小論文Ⅱ（文系の出題）・小論文Ⅲ（理系の出題）、面接（個人面接／20分／面接員複数）及び出願書類を総合して判定します。	
出　願　期　間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選　抜　期　日	平成29年11月17日(金)、18日(土)	
合　格　者　発　表	平成29年12月５日(火)	
そ　の　他	帰国生入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

帰国生入試（理工学部）

実施学部・学科名	理 工 学 部	化学・生物化学科 機械知能システム理工学科 環境創生理工学科 電子情報理工学科
募　集　人　員	各学科とも若干名	
出　願　要　件	日本国籍を有する者又は日本国に永住権を有する者で、外国に在住し外国の学校教育を受けた者のうち、次のいずれかに該当する者 １．外国及び日本において学校教育における12年の課程を、平成28年４月１日から平成30年３月31日までに修了した者又は修了する見込みの者。ただし外国において、日本の高等学校に当たる在籍期間を含め継続して２年以上学校教育を受けていること。 ２．文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして指定又は認定した在外教育施設に当該課程を含め継続して２年以上在籍し、平成28年４月１日から平成30年３月31日までに当該課程若しくは高等学校の課程を修了した者又は修了する見込みの者。 ３．外国において、次の資格を平成28年（2016年）又は平成29年（2017年）に取得した者で、平成30年３月31日までに18歳に達するもの ⑴　スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格 ⑵　ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格（ライフェを含む） ⑶　フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格 ⑷　グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格	
選　抜　方　法	以下の項目を総合して判定します。 （１）出願書類 （２）面接 化学・生物化学科：個人面接／20分程度／面接員複数／口頭試問を含む 機械知能システム理工学科：個人面接／15～20分／面接員複数／口頭試問を含む 環境創生理工学科：個人面接／約20分／面接員複数／口頭試問を含む 電子情報理工学科：個人面接／約20分／面接員複数／口頭試問を含む （３）【機械知能システム理工学科のみ】日本語による小論文（理工学教育を受けるための基礎能力に関することを含みます。）	
出　願　期　間	平成29年11月１日(水)から11月６日(月)	
選　抜　期　日	平成29年11月22日(水)	
合　格　者　発　表	平成29年12月５日(火)	
そ　の　他	帰国生入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。また、面接時間の長さは合否には影響しません。	

(4) 社会人入試

社会人入試（社会情報学部）

実施学部・学科名	社会情報学部	社会情報学科
募　集　人　員	若干名	
出　願　要　件	次の１から10のいずれかに該当する者のうち、平成30年４月１日現在、社会人経験（家事・家業従事者を含みます。）５年以上を有する年齢23歳以上の者 １．高等学校を卒業した者又は平成30年３月31日までに卒業見込みの者 ２．中等教育学校を卒業した者又は平成30年３月31日までに卒業見込みの者 ３．通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）又は平成30年３月31日までに修了見込みの者 ４．外国において学校教育における12年の課程を修了した者若しくは平成30年３月31日までに修了見込みの者で、平成30年３月31日までに18歳に達するもの、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの ５．文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者又は平成30年３月31日までに修了見込みの者 ６．専修学校の高等課程（修業３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は平成30年３月31日までに修了見込みの者 ７．文部科学大臣の指定した者 ８．高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第１号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）又は合格見込みの者で、平成30年３月31日までに18歳に達するもの ９．学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第２項の規定により本学以外の大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの 10．本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成30年３月31日までに18歳に達するもの ※　上記９又は10によって本学の出願資格を得ようとする者は、「９．入学資格審査について」（102ページ）を参照してください。
選　抜　方　法	選考は、小論文・面接（個人面接／15分／面接員複数）・学力テスト（数学及び英語）及び出願書類を総合して判定します。	
出　願　期　間	平成29年11月１日（水）から11月６日（月）	
選　抜　期　日	平成29年11月18日（土）	
合　格　者　発　表	平成29年12月５日（火）	
そ　の　他	社会人入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

社会人入試（医学部保健学科）

実施学部・学科名	医　学　部	保健学科
募　集　人　員	各専攻とも若干名	
出　願　要　件	次の１から10のいずれかに該当する者のうち、平成30年４月１日現在、社会人経験（家事・家業従事者を含みます。）３年以上を有する年齢25歳以上の者 １．高等学校を卒業した者又は平成30年３月31日までに卒業見込みの者 ２．中等教育学校を卒業した者又は平成30年３月31日までに卒業見込みの者 ３．通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）又は平成30年３月31日までに修了見込みの者 ４．外国において学校教育における12年の課程を修了した者若しくは平成30年３月31日までに修了見込みの者で、平成30年３月31日までに18歳に達するもの、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの ５．文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者又は平成30年３月31日までに修了見込みの者 ６．専修学校の高等課程（修業３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は平成30年３月31日までに修了見込みの者 ７．文部科学大臣の指定した者 ８．高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第１号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）又は合格見込みの者で、平成30年３月31日までに18歳に達するもの ９．学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第２項の規定により本学以外の大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの 10．本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成30年３月31日までに18歳に達するもの ※　上記９又は10によって本学の出願資格を得ようとする者は、「９．入学資格審査について」（102ページ）を参照してください。
選　抜　方　法	選考は、小論文Ⅰ（英語による出題）・小論文Ⅱ（文系の出題）・小論文Ⅲ（理系の出題）、面接（個人面接／20分／面接員複数）及び出願書類を総合して判定します。	
出　願　期　間	平成29年11月１日（水）から11月６日（月）	
選　抜　期　日	平成29年11月17日（金）、18日（土）	
合　格　者　発　表	平成29年12月５日（火）	
そ　の　他	社会人入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。	

社会人入試（理工学部）

実施学部・学科名	理工学部	総合理工学科（フレックス制）
募集人員	若干名	
出願要件	次の１から10のいずれかに該当する者のうち、平成30年４月１日現在、社会人経験（家事・家業従事者を含みます。）５年以上を有する年齢23歳以上の者 １．高等学校を卒業した者又は平成30年３月31日までに卒業見込みの者 ２．中等教育学校を卒業した者又は平成30年３月31日までに卒業見込みの者 ３．通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）又は平成30年３月31日までに修了見込みの者 ４．外国において学校教育における12年の課程を修了した者若しくは平成30年３月31日までに修了見込みの者で、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの ５．文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者又は平成30年３月31日までに修了見込みの者 ６．専修学校の高等課程（修業３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は平成30年３月31日までに修了見込みの者 ７．文部科学大臣の指定した者 ８．高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第１号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）又は合格見込みの者 ９．学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第２項の規定により本学以外の大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの 10．本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者 ※　上記９又は10によって本学の出願資格を得ようとする者は、「９. 入学資格審査について」（102ページ）を参照してください。	
選抜方法	以下の２項目を総合して判定します。 （１）出願書類 （２）面接（個人面接／約30分／面接員複数／口頭試問を含む）	
出願期間	平成29年11月１日（水）から11月６日（月）	
選抜期日	平成29年11月22日（水）	
合格者発表	平成29年12月５日（火）	
その他	社会人入試学生募集要項（入学願書付）の発表時期及び請求方法については、103・104ページを参照してください。面接時間は状況に応じて変わる場合があります。また、面接時間の長さは合否には影響しません。	

(5)　私費外国人留学生入試

実施学部・学科名	教育学部	社会情報学部	医学部		理工学部
			医学科	保健学科	化学・生物化学科 機械知能システム理工学科 環境創生理工学科 電子情報理工学科
募集人員	各専攻とも若干名	若干名	若干名	各専攻とも若干名	各学科とも若干名
出願要件	次の全ての項に該当する者 １．日本国籍を有しない者で、出入国管理及び難民認定法において、大学入学に支障のない在留資格を有する者又は有する見込みの者。ただし、日本国の永住許可を得ている者は除く。（注１） ２．次のいずれかに該当する者 (1)　外国において学校教育における12年の課程を修了した者若しくは平成30年３月31日までに修了見込みの者、又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの（昭和56年文部省告示第153号） (2)　スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者、ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格（ライフェを含む）を有する者、フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者、又はグレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格を有する者で、平成30年３月31日までに18歳に達するもの (3)　文部科学大臣が指定する国際的な評価団体（WASC、ACSI、CIS）から教育活動に係る認定を受けた教育施設に置かれる12年の課程を修了した者又は平成30年３月31日までに修了見込みの者で、平成30年３月31日までに18歳に達するもの (4)　本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成30年３月31日までに18歳に達するもの（注２） ３．日本学生支援機構が行う「平成29年度（2017年度）日本留学試験（第１回又は第２回）」を、次のとおり受験した者（注３）。理工学部においては、さらに、TOEFL-PBT、TOEFL-iBT、TOEFL-ITP（群馬大学で実施したもの）、TOEIC公開テスト、TOEIC Listening & Reading Test、TOEIC-IP（群馬大学で実施したもの）及びIELTSのうちいずれか１つを平成28年１月以降に受験していること。				

学部・学科・専攻名		日本語	数学	総合科目	理科			出題言語
					物理	化学	生物	
教育学部	国語、社会、英語、音楽、美術、家政、保健体育、教育、教育心理、障害児教育	○	コース１	○	－	－	－	日本語
教育学部	数学、理科、技術	○	コース２	－	いずれか２科目選択			日本語
社会情報学部		○	コース１又はコース２	総合科目又は理科のいずれかを受験すること 理科受験の場合は、理科のうちいずれか２科目選択				日本語
医学部	医学科	○	コース２	－	いずれか２科目選択			英　語
医学部	保健学科	○	コース２	－	いずれか２科目選択			日本語
理工学部	化学・生物化学科 機械知能システム理工学科 環境創生理工学科 電子情報理工学科	○	コース２	－	○	○	－	日本語

【私費外国人留学生入試注意事項】

（注１）日本国籍を有しない者であっても、日本の高等学校等（文部科学大臣が認定した在外教育施設を含む。）を卒業した者は、一般の入学志願者と同じ扱いになり、この選抜には出願できません。

（注２）個別の入学資格審査により本学への出願資格を得ようとする者は、平成30年１月11日（木）までに次の問合せ先まで申し出て、所定の申請手続きを行い、認定を受ける必要があります。

問合せ先：群馬大学学務部学生受入課入学試験係　電話：027（220）7150

所 在 地：〒371-8510　前橋市荒牧町４-２

（注３）平成29年度（2017年度）日本留学試験の第１回、第２回のいずれも受験している場合は、利用する成績は受験者が指定するどちらか一方となります。

<table>
<tr><td>選抜方法</td><td>大学入試センター試験を免除し、下記の①～③を総合して判定します。
① 日本学生支援機構が行う「平成29年度（2017年度）日本留学試験」の成績。理工学部においては、さらに、TOEFL-PBT、TOEFL-iBT、TOEFL-ITP（群馬大学で実施したもの）、TOEIC公開テスト、TOEIC Listening & Reading Test、TOEIC-IP（群馬大学で実施したもの）、IELTSのうち平成28年１月以降に受験したいずれか１つの成績
② 各学部で実施する個別学力検査等（次表のとおり）
<table>
<tr><th colspan="2">学部・学科名</th><th>個別学力検査等</th></tr>
<tr><td colspan="2">教育学部</td><td>一般入試（前期日程）と同じ試験等</td></tr>
<tr><td colspan="2">社会情報学部</td><td>数学、英語及び面接（個人面接／10分／面接員複数）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">医学部</td><td>医学科</td><td>一般入試（前期日程）と同じ試験等</td></tr>
<tr><td>保健学科</td><td>一般入試（前期日程）と同じ試験等及び面接（個人面接／15分／面接員複数）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">理工学部</td><td>化学・生物化学科</td><td>面接（個人面接／15分程度／面接員複数）</td></tr>
<tr><td>機械知能システム理工学科</td><td>面接（個人面接／15～20分／面接員複数）</td></tr>
<tr><td>環境創生理工学科</td><td>面接（個人面接／約20分／面接員複数）</td></tr>
<tr><td>電子情報理工学科</td><td>面接（個人面接／約10分／面接員複数）</td></tr>
</table>
③成績証明書</td></tr>
<tr><td>出願期間</td><td>平成30年１月22日（月）から１月31日（水）</td></tr>
<tr><td>選抜期日</td><td>各学部・学科の選抜期日は次表のとおりです。
<table>
<tr><th colspan="2">学部・学科名</th><th>選抜期日</th></tr>
<tr><td colspan="2">教育学部</td><td>平成30年２月25日（日）</td></tr>
<tr><td colspan="2">社会情報学部</td><td>平成30年２月25日（日）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">医学部</td><td>医学科</td><td>平成30年２月25日（日）・26日（月）</td></tr>
<tr><td>保健学科</td><td>平成30年２月25日（日）</td></tr>
<tr><td>理工学部</td><td>化学・生物化学科
機械知能システム理工学科
環境創生理工学科
電子情報理工学科</td><td>平成30年２月26日（月）</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>合格者発表</td><td>平成30年３月７日（水）</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>◎ 募集要項の発表時期については、103ページを参照してください。
◎ 日本留学試験については、日本学生支援機構留学生事業部留学試験課へ照会してください。
〒153-8503 東京都目黒区駒場４-５-29 電話：03（6407）7457</td></tr>
</table>

備考 １．教育学部卒業者は、所定の教育職員免許状を取得できます。
なお、教員募集の出願資格は各都道府県等によって異なるので、出願する都道府県等の教育委員会に問合せてください。
２．医学部医学科卒業者には、医師国家試験の受験資格が与えられます。
３．医学部保健学科卒業者には、それぞれの専攻に対応した各国家試験の受験資格が与えられます。
４．理工学部志願者の TOEFL-PBT、TOEFL-iBT、TOEFL-ITP、TOEIC 公開テスト、TOEIC Listening & Reading Test、TOEIC-IP 及び IELTS 試験の成績確認方法は、次表のとおりです。
５．面接時間は状況に応じて変わる場合があります。また面接時間の長さは合否には影響しません。

対象	成績確認方法
TOEFL-PBT、TOEFL-iBT のスコア （平成28年１月以降に実施されたもの）	本人宛に送付されたスコア（Examinee Score Report）の原本とそのコピー１部（Ａ４サイズ）を提出してください。 原本は受験票とともに返送します。
TOEFL-ITP のスコア （平成28年１月以降に群馬大学が実施したものに限る）	群馬大学が実施した TOEFL-ITP テストのスコアカードの原本とそのコピー１部（Ａ４サイズ）を提出してください。 原本は受験票とともに返送します。
TOEIC 公開テスト、TOEIC Listening & Reading Test のスコア （平成28年１月以降に実施されたもの）	Official Score Certificate の原本とそのコピー１部（Ａ４サイズ）を提出してください。 原本は受験票とともに返送します。
TOEIC-IP のスコア （平成28年１月以降に群馬大学が実施したものに限る）	群馬大学が実施した TOEIC-IP テストの Score Report の原本とそのコピー１部（Ａ４サイズ）を提出してください。 原本は受験票とともに返送します。
IELTS のスコア （平成28年１月以降に実施されたもの）	本人宛に送付されたスコア（Test Report Form）の原本とそのコピー１部（Ａ４サイズ）を提出してください。 原本は受験票とともに返送します。

８．障害等のある入学志願者との事前相談について

本学では障害等のある学生への修学支援を行っております。

障害等があって、受験上及び修学上の配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、あらかじめ本学と相談してください。

⑴ 相談の時期

① 一般入試：平成29年11月10日（金）までとしますが、なるべく早い時期に相談してください。（私費外国人留学生入試を含みます。）

ただし、点字又は代筆による解答を希望する者は、平成29年11月10日（金）以前のできるだけ早い時期に相談してください。

② 特別入試：アドミッション・オフィス（AO）入試は平成29年７月28日（金）まで、推薦、帰国生及び社会人入試は平成29年10月２日（月）まで（医学部医学科の帰国生入試は平成29年11月10日（金）まで）としますが、なるべく早い時期に相談してください。（私費外国人留学生入試を除きます。）

⑵ 相談の方法

本学所定の相談書に医師の診断書等必要書類を添付して提出してください。必要な場合は、本学において志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面談等を行います。

⑶ 連絡先

群馬大学学務部学生受入課入学試験係　〒371-8510　前橋市荒牧町４-２　電話：027（220）7150

９．入学資格審査について

一般入試については、46ページの出願資格⑨又は⑩、社会人入試については 97 ～ 99 ページの出願資格９又は 10 により本学への出願資格を得ようとする者は、本学の入学資格審査を受け認定を得る必要があります。

詳細については、本学ホームページ（http://www.gunma-u.ac.jp/prospective）の入試案内を参照するか、本学学生受入課（上記８の⑶連絡先を参照のこと）へ問合せてください。

10．注意事項

⑴ 受験票

大学入試センターから送付される平成30年度大学入試センター試験受験票は、紛失したり汚損したりすることのないよう大切に保管し、本学の個別学力検査等の試験当日、本学受験票と一緒に必ず持参してください。

⑵ 成績請求票

① 大学入試センターから送付される成績請求票は、本学の個別学力検査等の試験に出願する際に、他の出願書類とともに提出しなければなりません。したがって、個別学力検査等の試験の出願時まで、紛失したり汚損したりすることのないように大切に保管してください。

② 本学への出願には、志願する学部の日程区分に従い、「前期日程用」若しくは「後期日程用」を使用してください。

⑶ 写真

本学への出願には、平成30年度大学入試センター試験の受験票に使用した写真と同じもの（タテ4cm×ヨコ3cm１枚）を使用するのが望ましいですが、紛失等やむを得ない場合は、出願前３か月以内に撮影したものを使用してください。

11．入試過去問題の利用について

⑴ 本学は「入試過去問題活用宣言」に参加しており、本学の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を実現するために必要と認める範囲で、「入試過去問題活用宣言」参加大学の入試過去問題を使用して出題することがあります。

⑵ 入試過去問題を使用して出題する場合は、一部を改変することもあります。また、必ず使用するとは限りません。

⑶ 入試過去問題を使用して出題した場合は、入試終了後に受験者に分かる形で使用過去問題を公表します。

⑷「入試過去問題活用宣言」の詳細及び参加大学の一覧については、次のURLにて公表しております。

http://www.nyushikakomon.jp

12. 募集要項の発表時期及び請求方法

(1) 発表時期

募集要項の種別	発　表　時　期	備　　考
一般入試学生募集要項	９月中旬	群馬大学ホームページで公開
私費外国人留学生入試	９月中旬	群馬大学ホームページで公開
アドミッション・オフィス（AO）入試学生募集要項	７月上旬	入学願書付
推薦入試学生募集要項	９月中旬	入学願書付
帰国生・社会人入試学生募集要項	９月中旬	入学願書付

(2) 請求方法

募集要項等は次のいずれかの方法により御請求ください。詳しくは､群馬大学ホームページ（受験生のみなさまへ＞資料請求）を御覧ください。

URL　http://www.gunma-u.ac.jp/admission/adm008/adm008_001

○ 「テレメール」で請求する場合

パソコン、スマートフォン、携帯電話又は自動音声応答電話の指示に従って請求してください。

インターネット（パソコン・スマートフォン・携帯電話）	自動音声応答電話
ＵＲＬ　http://telemail.jp スマートフォン、携帯電話で右のコードを読み取ってアクセスした場合は、資料請求番号の入力は不要です。	IP電話　050−8601−0101（24時間受付） ※　IP電話への通話料金は、一般電話回線からは日本全国どこからでも３分毎に約12円です。

請求を希望する資料請求番号（６桁）を入力してください。

資料名	資料請求番号
推薦入試募集要項	581662
AO入試募集要項（理工学部）	597392
帰国生・社会人入試募集要項	594032

・請求してから１～２日程度で資料が届きます。ただし、受付日時や地域、配達事情によっては、お届けまで３日以上かかる場合があります。また、発送開始日が変更になる可能性もあります。４日以上経っても資料が届かない場合には、下記テレメールカスタマーセンターへお問合せください。なお、発送開始日以前に請求された資料は予約受付となり、発送開始日になりましたら一斉に発送されます。

・料金は、資料に同封されている料金支払い用紙をご確認の上お支払いください。なお、料金の他に支払い手数料が別途必要になります。また、料金は資料の重量変更により変更になる場合があります。

・自動音声応答電話による請求の場合、住所・氏名の登録時は、ゆっくりはっきりとお話しください。登録された音声が不鮮明な場合は、資料をお届けできないことがあります。

・資料がなくなり、早期終了する場合があります。

テレメールでの請求に関する問合せ先
株式会社フロムページ「テレメールカスタマーセンター」
ＩＰ電話：050-8601-0102（９時30分～18時）

○ 資料請求サイト「モバっちょ」で請求する場合

パソコン、スマートフォン等から「モバっちょ」にアクセスして、指示に従って請求してください。

URL　http://djc-mb.jp/gunma-u3/　からアクセスしてください。

コードリーダー機能のあるスマートフォン等をお持ちの方は、右のコードを読み取ってアクセスできます。

「モバっちょ」での請求に関する問合せ先
大学情報センター株式会社「モバっちょカスタマーセンター」
電話：050-3540-5005（平日 10 時～18 時）

13. 平成30年度群馬大学一般入試の志願状況等の発表

以下の Web サイトを通じて、志願状況等の発表を予定しています。

情　報　の　内　容	Web サイト	期　　間
志願者数・志願倍率	群馬大学ホームページ（大学からのお知らせ） URL http://www.gunma-u. ac. jp	願書受付期間中更新 （確定値） 平成30年２月２日(金) (13時)
欠員補充第２次募集実施の有無	群馬大学ホームページ（大学からのお知らせ） URL http://www.gunma-u. ac. jp	平成30年３月 28日(水) 以降